

睥
兒
錄

自三拾四年
至三拾五年

in Tokyo.

柳田文庫
文庫11
A1403





夫道義人ノ人タル所以ニテ踊ニ行リ可ク道途ニ
 一テ人ノ此世ニ生ルニ其命波葉ニツアリ一ハ道義ノ
 光明ニ向テ進シ一ハ不道不義ノ暗暈中ニ迷走ス即ケ人
 類眼始メテ赫々タル日月ノ夫華ニ映シ播種ノ中ニアリ
 テ天地ノ至大ヲ視雜照タル萬象ニ警ルサハタル屬轉既
 ニ業レ此道義ノ分岐點ニ置カレタルナリ人類ノ天地至
 大ノ産々荒ニシテ矢天的ニ彼ノ天性からんて存シ
 徒テ意志開発セラルルニ及ビテハ自己ノ觀念ヲ生シ亦
 其良心ニ従テ善惡ノ判断ヲ爲スルヲ得可ク此善惡ノ標
 準ナルモノ一翻照其限界ヲ明瞭セザルモノ自己ノ意志
 問ヒ或ハ答ヒテ自ツカラク又響ムル所ノモノニシテ各人

道義論

明治三十五年

二月稿



文庫 11
A 1403

道義論

其規ヲ一ニスルカ如シサレバ道義ハ吾人が既ニ天地至
大ノ一部ヲ其精靈シ得タルモノトスレバ此觀念ハ別
創焉セラレタルモノニ非ズシテ萌芽猶小ナリト雖モ先
天シ吾人精靈ノ一部ヲ爲スモノナリコレヲ内ニシテハ
良心ト云ヒテ之ヲ道義ト稱ス可シ也或ハ道義ヲ以
テ箇人各自ノ利益保護ノ爲メニ創焉セシタルモノト
リトノ見解ヲ懷クモノアリ也此論ハ皮相以テ人心内節
ノ奥妙ヲ説ク可カラズ道義ハ匡ノ箇人ノ内節安寧ヲ作
リ外ノ法ハ母トシテ其威ヲ八紘ニ及ボス法ヲ解スルモ
ノ往々箇人利益ノ發動ト爲ス一誠ニ道義其者ノ由ラ未
ハ廣ク知ラガレカ故ナリ夫レ然リ道義ハ其及ブ所ヤ至
廣吾人ノ以テ攝ル可キヲ示シ以テ社会ノ調和ヲ致ス

人類始メテ出現セハ當時ハ批謂彼ノ渾沌タル也
ニシテ箇々其意ニ從テ行動シ或ハ其意未ダ充分開展
セズ始メト本能的ノ動作セシモノナル可ケレバ道義ノ
萌芽タルヤ積雪幾千丈ノ下ニ埋没セシレバ復モユルガ奈
揮ヲ見ル可カシザリシモ史ヲ見テ爰ニ四千載其初期
嚮リテ漸ク社会テフ團體ヲ奏現シ人情ノ通ルハ所人心
中精靈ノ氣一度發動シテ初メテ道義發展ノ過剰ヲ見ル
ニ至リリ箇人良心ノ明瞭ナル觀念一即ノ箇人道義ノ發
達スル所以ニシテ此レ於テカ善惡ノ標準裏シ一定シ人
ノ人タル可キ本分ニ攝ル所アルヲ示セリ箇人ノ道義漸
ノ明カナルハ及ビテ之ヲ弱ク輔ケ強ク挫キテ相補助シ有
無相補シ箇々相補ヒテ以テ箇人ノ進歩ニ攝ルタル文明

ヲ墜コ又箇人各々自己ノ良々ニ徒テ行動スルニ至ルヤ
社会ニ不知ノ間ニ良風ヲ生シ善ヲ奨メ惡ヲ懲クニ至
リ此ニ法ノ現出ヲ見ルニ至ル即チ知ル法ニ道義ノ末葉
ニシテ唯其朕敷ノコトナルコトヲ人心概リ複雑ヲ加一社
会概リ難然タルニ及ビテハ各人唯モレノ所ヲ以テ
足リトセズ大ニ其發動ヲ催ス可キナリ即チ箇人の道
義ハ社会安寧ノ維持ニ中要ナル可キモ社会ノ進歩概
良ニ道義モ亦ニト共ニ猶一層長足ノ伸展ヲナス可
キヲ要ス東洋の道義ハ主トシテ箇人の道義ニ止リ博
度之仁ノ本體ナリト云モ孔子ノ仁聖賢ノ善安唯理想
ノ上ニ遠スル致像形骸ニ過キス而シテ猶ホ其肉壳
ヲ見ガリシハ大ニ慥々可キモノアルナリ我國概テ概テ

共ノ道義ヲ云々スルモ猶其实ヲ見ルヤ遠カル可シ然レ
氏是ニ靜止ニテ其發達ヲ待ツ可キニアラズ吾人大ニ欠
乏ヲ悟ル今日ニ於テ公德或ハ社会的道義ヲ鼓吹スル
決シテ猶風ニト云フ可カラハナリ
社会的道義ハ如何ナルモノナルカト云フニ箇
人的道義概リ發達ニテ漸ク有無相通ニ相補充シ衣食足
リテ禮節華カリ人情ノ遠敵スル所長シ彼ノ同情心ヲ生
シ福ハ貪ヲ補ケ強ハ弱ヲ憫シ以テ此ニ始メテ露々タル
内葛ノ社会ヲ發現ス可シ社会的道義ナルモノハ唯一社
会ノ安寧ハ其カ内葛ヲ得ルハ自然ニ委スベキモノニア
ラズシテ洵ニ社会的生活ヲ營ムモノノ義務ナリニ最
モ發達シタル庶民の觀想ニシテ人類携提ニテ神域ニ庭

ムノ道ヲ依リ社会ニ益々清潔ノ氣ヲ發揮シ人類ノ幸福
以テ中ニ搦ス可シ社会道義ノ發達ニ大ニシテ其國ヲ
富強ナシニシテ一箇人ガ需用ノ供給充分ナルヤ否ヤノ関
係ヲ有スルヤ明カナリカハ故シ其國道義ノ發達如何ハ
産マカシ該國ノ富強ナルト社会文化ノ有様ヲ示スル
足ル可キナリ凡ニ歐洲ノ列國及北米合衆國ガ富強ヲ
以テ誇リ文明ヲ以テ慢リ傲然トシテ其界ニ濶歩シ嘗テ
稱シテ曰ク國際公法ヲ通用シ共ニ對等ノ條約ヲ爲スモ
一軍ニ耶穌教國文明シカリトコレ幾分其僻見タルヲ
免レドト雖モ湘テ國際間契約ノ監視ヲ見ルニ取テ諸
國一既ニ業ニ超然トシテ物質的ノ進歩ノシテテス社会
的道義ハ於テ他ノ亞細亞諸國ニ先ケテ驟然一頭地ヲ

按キタリサレバ其初メニ當リテハ國際間ノ契約ハ此等
耶穌教國間ノ契約ナリシテ而シテ亞細亞ノ諸國ヲ眺
ムレバ釋尊孔子ノ道一唯ハ人口ノ増減ニ書冊ニ止
マリ人道衰一國勢去リ大車擧々タル墳墓ノ形勢歟リ
如シ如何ゾ彼ノ洋人ヲシテ國際ノ公法ハ是耶穌教文
明國ノ占有物タルコトヲ言フ禁ニ得ニキカ呼コト馬ノ其
志想ヲ徹探シ得マケシ夫レ歟ノ如ク道義ハ社会ニ表
裏ニテ常ニ密ナル關係ヲ有フコトナリテ其運命ヲモ共
ニス而シテ亦社会道義ハ發達如何ハ國家ノ消長ハ周聯
スルヲ至大ニシテ國家一區域人民及統治權ノ三要素
ヲ以テ成立スルモノナリハ其國民ノ道義發達ニ國家ハ
服従ス可キ所以テ知リ國家社会ニ對スル義務ハ二一

四

各人可キ本分ヲ悟ラニ初メテ衰ハ隆タタル國家ヲ致シ
完美ナル社会ノ組織ヲ見ルニ至ラニシテ史乘ノ間ニ
求メテ決シテ其例ニ乏シカラサル可シ思フ其弊ノ在
民道墜トタハテ捨ハカニテ無爲ニシテ化スルノ治アリ
希臘羅馬ノ盛時或ハ黄金時代ト稱セラルハ、モノ主鑑シ
ルニ國家ノ隆替一帯ニ社会道義ノ消長一正比ニ道義衰
ハ人造地ニ居テ暗黒ノ世至リ國家社会更ニ崩裂シ始
シテ度ハ可カラザルニ至ルハ一我國史乘保元平治承久ノ
亂ノ戰國時代ニ見ルマツリ十八世迄ノ頃獨ハルニテ舊
教徒ノ腐敗ヲ絶トシテガロアスタントノ曙光愈々精確
自由正義ノ聲四方ニ反響シ佛國ハアリテハ慘憺タル序
教ノ革命トナリニハ一十六世一斷頭場下ニ余ヲ落トシ次テ

政治的利害ノ加味スルニ至リテ一更ニ腥毒タル三十年
戰爭ノナリ乾坤暗澹トシテ文明ノ夫輝全ク泯滅シ蒙昧
蠢歩ノ姿ヲ呈シタリ熟々思ハ見ルハ、國家ノ成立一國民
道義的ノ治ヲ至リテ初メテ認ム可キモノニシテ主
權者カ壓抑以テ人民ヲ拘束ス只ハ強判服従セメテ得タ
ル國家ハ決シテ真正ノ國家ト爲人可カラス中ニ嘗テ自
由ノ幸無カリシハ馬ア人造ノ美ト文化ノ穢器ヲ認ムル
ヲ得シ國民ハ國家的觀念ヲ達シテ遂ニ有ク確固タル國
家ノ基礎ヲ取テ作ハテ得シ若シ然ラズハ是ハ空中ノ樓閣
構閣砂上ノ大厦ニシテ早晚倒タガハテ免ヘザル可シ彼
ノ支那若大國ニ見テ民衆敗ハ幾億石其故國ヲ開大其史
マ古ニト雖モ人民ハ國家的觀念無ク社会的道義無シ外

觀一絶大ノ國家ヲナスト雖も幾度カ歐洲列強ノ暴
食スル所トナリ國庫空乏ニテ國家ノ基礎蝕クナリガハ
ニ度糧ノ強國ニ漸ク其最ノ輕重ヲ問ハセト欲スハ至
一リ由是觀之國家ノ富強如何ハ國民ノ道義ニ土俗ハハ
ノコトナラズ夫ハ國家ノ昇立ハ其基礎ヲ此ニ掃入豈夫ハ
社會ノ道義ノ發展約クモ勿論ニ付スモキモナリシヤ
是ハ誠ニ國家休戚ノ申ラ奉ル所ノモノナシバナリ夫ハ
物一星病ヲ往ハト共ニ進歩多邁又道義ノ如キモ其精華
ヲ尋ネテハ皆是ハ租ナリ男ハナリ質ヨリ文ニ遷リ奉ル
ハハ論ヲ待リテ即チ箇人思想ノ發展ト社會ノ複雜ト共
ニ箇人ノ道義併日シ公德ハ其畛域漸ク大ニ進ニテ一統
謂彼ノ博愛トナリ同情心トナリ人類互ニ相權ニ相補ケキ

十月稿

十月三日
直談屋稿

○小冊、社会
大ニ進歩
其時、其
其時、其
其時、其
其時、其

熱、社会ノ状態ヲ觀ルニ時々刻々粗ヨリ密ニ入リ進歩
歩、人生ノ福祉ヲ於テ益精美ヲ加ヘ人生ノ快樂愈
増進セラル見ヨマハ大車一箇瞬時ニテ數百里ヲ飛ビ
大輪一萬里ノ怒濤ヲ排ニテ五大陸ヲ一ニテ相陸リ
思ハラズ大廢業ニ全地球ヲ圍繞シ電報ニテ相見スニテ
幸音機ハ能ク十年前以前ノ人ヲテ其塞ロリ五十年
以テ相語ルニ能ク現時物望ノ文明ハ其進歩ノ偉大ナ
ハ吾人ガ歎次萬能ノ域ニ進ニ時ト空間トシテ文藝ニ所謂
彼ノ神威ニ達スルノ遠キニアラハルヲ知ラニハ聞説十
九在能ノ文明一物候的進歩ニ於テハ最モ驚クニハ百年
ノ在能ノ間歴シ其比ヲ見ガハ所ナリト現時其文明ノ

○今日之政
響

○今日之政
響

得ニテ準備、擴張ヲ為ス。之ニ既シ本末冠履顛倒ノ行
爲ナリ何カレバ我々生存シ休養シ國力ヲ足ラシ兵ヲシテ
強カラシムルノ基ヲ創セザルニ
生存ノ競争劇甚ナルト云々
ニシテ社会主義ナルモノハ、獨逸ノ今後至大ノ影響ヲ及ボ
ス。中セリ今ヤ欧米ノ強國ハ帝國主義ノ擴張ニ傾ヘン
ヲ、秋ナリ是ノ國々國々ノ生存競争ノ結果トシテ國民
増殖シテ内ニテ養フニ足ラズバ勢ハ資ヲ他ニ求ムル
ノ外ニ無キナリ。之ノ其主義ノ起ル所以ニシテ現時世
ノ趨勢ナリ。曩キニ年ルハ一ニ世獨逸帝小ノ帝位ニ在
ルノ日社会主義ノ徒猶極メ往々皇帝危言ヲ發スル
ニハアルヲ見ル。及ニ今ヤ時ノ宰相ハスルニ一隊シテ

○今日之政
響

○今日之政
響

國社会主義ノ政界ヲ取リテ以テ時艱ヲ救ヘタリ社会主
義者ガ標榜スル所ニ須ラシ其荒ノ間ニ適宜ニ来ル或ハ
既シ来ルニ貧富ニ若同ヲ調和シ所謂社会ヲシテ平等ノ
位置ニ置カンルニ在リ。既リ而シテ時艱ヲ救済シ弱
者ヲ強者ノ手ヨリ奪ヒテ之ヲ保護シ各人ノ平等ヲ期スル
一吾人ノ尤モ賛同スル所ナリ。然リテ雖モ之ノ理論ナリ
何ノ事カ各人平等ナルヲ得ル各人平等ノ材能ト活動
ト凡テノ堅シ北ラ同一ナルニ非ズバ不可能ノ事ニシ
テ以テ至テ絶対的ノ度行ハズ行ス可カラザルモノニシテ
唯比較的ノ面ニラシニ若シ世ノ所謂平等多ク絶対
的ニ行ハズ得ズ。如クハ是ノ勿論不可能ノ事ニ
シテ極端ノ論ナリ。今ヤ米國ノ民権尤モ發達セル國ニ

社会主義の
個人主義

セラレ其属越ハ天下ノ鳴リ國ノ王侯無ク平等ヲ以テ主
義トシ、あめりあ子民ハ一ニ標榜スル千古ニ卓立セル佳國
ナルモ用ラズ猶廣ク開他甚ク勞働同恩ハ社会ノ
一被柄ニシテ亦一大同家ナリト聞リ現時標ハラル、社
会主義ハ主ニシテ時勢ノ區也ヨリ来リンモノナルハ
ハ元来平等博愛主義ノ基キル耶蘇教ノ見響スル所
決シテ少シ非ガレ可シ社会主義ノ対シテ往々個人主
義ナル言ヲ聞リ各人個人主義ノヨリテ各個人ノ安穩福
祉ヲ求メテハ往テ社会ハ完美ノ域ニ達シ由為有故ノ美
ヲ致スヤ中セリ也、凡以等ノ二主義ハ極端ニ走りテ中
庸ヲ獨ラ個人ノニ、安固ヲ致スハ決シテ各人ノ道ニ
スバ少ナクトモ社会ノ一直タニ以上一之ニ対スル至第

ナル可シ然ラバ唯自モノ母身利益ノコトヲ之ニ謀ルハ
生ノ目的モ非ラズ君子ハ身ヲ殺シテ以テ仁ヲ爲スト
又西語ニ Der brave Mann denkt an sich selbst julekt
トコレ既ハ君子勇士ノ行爲ニシテ一般道義ノ標準トナ
スヘカラス古語ニ曰ク衣食足リス禮節ヲ知ルト自箇ハ
本ニシテ他ハ末ナリ之ノ普通道徳ノ標準ナリト可シ故ニ
箇人主義中スルモ要シト云フハ唯相對的ナリ、サ
ル可カラズ箇人主義ノ極端ニ流レタルモノハ利箇主義
ナリ社会主義ナルモノハニ、畢竟平等主義博愛主義ト
ルヲ類ル今日ノ状況ニ適シタルモノナルコトモ往々
ニテ突皮ニ走ル婦人ナリ思フハ箇人主義ハ道義ノ初
歩ニシテ吾人完美ナル社会ヲ組織シ十全ナル國家ヲ能

日産論

捕シ人生ヲシテ至樂ノ域ニ達セシメント欲スルモノ
一 斯ノ如ク幼稚ナル道奇ノ在平地上ニ停滯スルモノ
一 アリテ須ラリテ能クハ孤ヲ提ク所謂彼ノ前進スル
兵士ノ如ク歩武ヲ一ニシテ社会ニ進歩ラ致シ至樂ノ享
有ラ欲スルモノ吾人ノ理想ナリ然リ而シテ自然ノ勢ヤ吾
人ニ以テ聖國ヲ現セシケルニ至ラズ猶生息ノ差別甚シ
テ級ノ内ハ強ノ食ハナル世ニ変化ナケルハ進化ノ力
教ノ教ハ所ナク如クナレバ吾人ガ自然ノ対ニ
對抗力ハコリテ之ヲ支配スルニ決シテ不可能ナル
能ハトシテヤリガハナリ
吾人ガ社会主義ノ未來ニ對シ其況望スル所ノ大ナル一

知リ之ガ解決ノ急務ヲ悟ラハ勢性目シテ其趨勢察シ
ラ災禍ヲ未幾ニ禦クノ用意ナカル可カラズ此ニハ其公
ヤ如何者人ニ決シテ彼ノ劇烈ナル社会主義ヲ欲スルモ
ノニアラズ寧ロ所謂彼ノ國家的社会主義ノ在レカ
フニ貧富隔絶ノ差ヲシテ軒輊ナカラズトスル容易
ノコトトシテアリテ例今一貧富ノ懸絶ヲ能ク一朝ニシテ
一ナルヲ見ルニ雖モ只一其一二トトコリ一服ノ元則
トシテハ決シテ一朝ニシテ成ルモノハアラザルトシテ
史シ傲シテ明カニスル所ナリ夫レ事ハ成ルニ日ニ成
一 アテテ不世間往々ニシテ見ル如ク標本ニシテ
地ノ層ヲ積シ双キテ奉ゲテ能ク巨萬ノ財ヲ致ス或ハ燦
燈ノ睡ノ夢ニ千金ヲ抛テ萬一快ノ華榮ヲ噴ニ洗足禱

○國家事業

講路頭、彷徨スルモノアルヲ見聞スル所ナレド是レ單
、史想ノ觀ナリ孰シ貧富階級ノ区別スル所ヲ見ル少
ナクトモ教在他ヲ要ス況ニ又其及出所多大今且、如
キヲ見ル一耳ニ幾多ノ星霜ヲ閱シタルヤ中セリサレハ
此ヲ迫リ来リフ、アル強瀾ヲ不刷シ還サントスル一言
、何リ盡ス得可ヤハカラガレハ
今、食民放溺ノ道ヲ講ジ其法ヲ劃スル、正ニ國家事業
散人ノ問題トナラシム此時、當テ以華事業ヲ培只仁
人ノ慈牛ノ待タントスルハコレ大ナル謬ナリ且、國
家事業トシテ全カク注キ以テシテ空矣、中、故、ハ、ガ
ツカラス現時、孤院、院、ニ、ア、ラ、シ、凡、能、ク、分
社会ノ要、求、適、入、ハ、吾、問、ハ、バ、ン、テ、知、ル、ン、吾、人、ノ、同

○國家事業

○世の風

能、多、教、猶、全、矣、中、苦、惱、ス、ル、若、シ、多、キ、ニ、テ、觀、ル、
現時我國、公共的意義其奈、建、煩、ル、依、リ、仁、人、慈、者、手、少
ナキヲ如何セシ是レ風ニ我國政權、武、問、ニ、歸、シ、コ、リ、以
来、被、タ、レ、ハ、封、建、政、度、ノ、遺、弊、ニ、テ、國、人、相、互、ニ、猜、疑、ノ、念
ヲ、以、テ、相、見、エ、敵、ト、シ、テ、他、境、ノ、地、ヲ、踏、ム、ノ、時、代、ニ
當、リ、テ、相、互、ノ、情、相、通、セ、ズ、庶、民、ハ、帝、ノ、壓、抑、セ、ラ、レ、テ、其
能、ク、伸、ブ、ン、ト、シ、得、ズ、此、階、級、的、壓、制、政、治、ノ、下、ニ、於、テ、如、何
ヲ、カ、民、權、ノ、發、達、ヲ、希、フ、コ、ト、得、ケ、レ、ヤ、サ、レ、バ、人、々、各、自、ヲ
全、ク、ス、ル、ハ、シ、テ、後、々、ト、シ、テ、他、ハ、格、ヲ、觀、ル、ハ、ハ、服、ア、ラ、カ、リ、シ、テ
リ、是、レ、莫、シ、我、國、人、ガ、公、共、的、道、義、シ、ク、シ、キ、一、因、ニ、シ、テ、其
剝、奪、ス、ル、所、マ、深、ク、シ、テ、遠、シ、夫、ノ、斯、ク、ノ、如、ク、封、建、ノ、政、度
ハ、衆、庶、ヲ、壓、抑、シ、テ、民、權、ノ、伸、展、ヲ、阻、碍、シ、相、互、國、民、接、觸、

○自由西史
一、共和の神

概分チ先ハシマタリカド一度泰西ノ共和未ラ互市ヲ
求ムルヤ或ハ攘夷ノ論ハナリ或ハ再轉シテ封建ノ論
ナリ轉轉紛糾幾固チルヲ知ラズ封建ノ弊政除クニ王政
復古ノ民衆始メテ其症ニ安メル明治ノ聖代トナリ泰西
ノ風潮ノ染潤漸ク深ク長ク弊政ニ苦ムル國民天日ノ魂
恩ヲ流シテ共和ノ民權ノ自由發達ヲ希フト共ニ明也
三年ノ國會令設テ見ルニ至リ此ニ於テカ國家ノ基礎
愈々固ク國民ノ權利伸張ノ期ニ向ヘタリ然リ而シテ
國民ノ泰西ノ文明ニ奉テヨリ爾来日猶淺キノ故ヲ以
テ物質的ノ文明ニ能ク取テ未ノ類ニ倣ヘ建設造營セ
テ貞ニ命ニ文明ノ姿ヲ粧フ事ヲ得タリ然リ而シテ其内
ニ至リテ一封建時代ノ遺風タル利權ノ争ニ富メ地博後

共和の神
一、共和の神

○浮田ニ

○西史
一、共和の神

公共ノ南義ニ至リテハ極メテ幼稚ナルモノナリ試ニ視
テ家ニ特種ノ富ヲ積ニ綾繡ヲ身ニ纏ヒ爛燈緑酒ノ下春
膏ノ一刻ノ千金ヲ拙々賭博ノ遊戯ニ萬金ノ財ヲ輸ス富
蒙伸士ヤラン大臣宰相好ニテ子孫ノ富ニ美田ヲ置フ
ハアラシキ其利ヲ其子孫ニ傳フ其教ヲ多シ翻テ思フ能ク公共
ノ富メシ其利ヲ抛擲ニテ其教ヲ多シ翻テ思フ能ク公共
ナルニ服アラシキ其利ヲ抛擲ニテ其教ヲ多シ翻テ思フ能ク公共
其困憊ヨリ救済シ或ハ邦家ノ安寧福祉ノ爲メニ身年ヲ
忘ルノ爲政治家幾人カアルモ其少ナキ
ヲ悲スサルモカラガハナリ見エバ彼ノ佛獨戰筆ノ際
内務大臣陸軍大臣タリシ人相天及ヒ工部大臣タリシ
ヤリあハシ大ニ邦家ノ爲ニ献身努力シテ遂ニ佛國ノ

共和の神
一、共和の神

○哲人林
要ス

健全ヲ望フニラコソ初マシ大材ヲ得ハケル西語に *Sein*
nicht in der Schule, sondern im Leben 吾人生際
學曰実務を思シ應用シラ能ク孝問ノ真價値ヲ知ルマシ
其真價値ヲ發揮シ得可シ之ヲ若輩問ト云フマシ之ヲ若
勤的人材ト稱スルコト今日吾人ノ要求スルモノ一此ニ種
ナリ此等ノ人々ハコソテ社会ノ調和ヲ致スヲ得可ク
今問題ノ解決ヲ希望スルコトヲ得マシハナリ
○増ラ、コソ「共和ナル書ヲ著スルヲ社会問題ヲ論ジ
タルヲヤリ且」皮シ之「ガ萬分ナルコト」社会主義
コソヲ熱シ歴史的一好ムル「往時埃及希臘」在ニ此
既ニ土地ノ制限法ノ祖創ナルヲ見ル降ラ二十年佛國ノ
華年トナシリ前ヤ「コヤ」コソ「ハ」民約法

○往古
歴史

子
子
子

教次ニテ以テ民権ノ發達ト平等ヲ主唱ニタリ其他
多ノ志士甚多ノ孝若シ「コソ」ヲ解釋セシムルコト
「了」了スルコト也、資本没収主義ナリ或ハ「セ」セ
ノ普及的平等トナリ或ハ「セ」セ「の」國家力
トナリ或ハ「セ」セ「の」私有財産自由契約トナリ翻テ「の」あ
ウ「セ」セ「の」半神人出現ナル樂又的主張ヲナス
モ「の」ナリ其主唱スル所其標榜スル所「の」也「の」也
佛國華原時代ハ「の」政治的自由社会的平等トナリ次
ヲ公有主義共產主義普及的社会的主義民主的社会的主義國
家的社会主義ノ命名ナルト至リ何レモ其大任ハ「の」
ハ大任ナリ社会凡爾「の」平等ヲ企畫シ生存競争ヲ内階
ラ「の」各人々懸コソ「の」相提携シラ其福祉ヲ分テ進
十

○往古
歴史

十九世紀
の教育思想

一人理想の神域を成せしむるに在り社会主義なる聲
が婦々々々鳴道七うらたへ近々四十年以來アリト
雖も其内容その如く歴史と共に古く人類の相闘争の
須要を察しガレナリ而して今漸く生存の競争劇甚加
七層層進歩の差愈々甚しナラントスルノ秋に際して
こり年々秋キテ望観スル者三若ノ位望し立フ一オニ
テ天壽口率先シテ此問題ヲ解決スベキノ任ヲ有ス以
以等ノ問題に對してハ血涙の志士ガ奮ラ之カ奮メ
献コ多ク孝若シロリテ救ヒセリニタレドモ猶未だ
分チル統諦ヤルヲ且公吾人々今一頭歩ヲ進メテ之カ策
ヲ劃セシトス
抑も社会組織變轉ノ有様ヲ考フルニ既ニ前述セシカ如
熟

○政策

○教育思想
の刷新政策

一 一朝ニ成ルルニテ成ルルニテ成ルルニテ成ルルニ
及ハル處、生存競争ノ結果ナル貧富ノ隔絶、労働問題
及、其他ノ社会問題ヲ能ク解決シ年々其ニテ吾人
ノ理想界ヲ現存ニ吾人至大ノ福祉ヲ享有スルニ望ム
ノ業ナラシムヤ唯現時緊急ノ業務トシテ其実施ヲ見
欲スルハ左ノ数項ニテナリ
（一）第三流者ヲ凡テ国家的事業トシテ救済ノ道ヲ講
キト
（二）國民ノ精神的教育ヲ主トシ時ニ公共的意義ヲ養
國民的性質ヲ高ムルコト
（三）國民一般ノ教育ノ普及ヲ謀ハコト殊ニ在来ノ
的的教育法ヲ全無撤去シテ根本的定勢教育ノ基礎ヲ
立ツ

○原王政建立
附告
傳信所
教育系陸軍

ハコト
四階級制度ヲ廢シ平等ヲ旨トスルコト
五教育家階級著教訓的指導者タルコトモノヲ大ニ淘汰
是ナリ夫ニ主本學ト謂働者貧富階級ノ間ニ於ケル生存
ノ競争權制ノ下ニ於ケル人民ノ自由心廣ク人類一儉
於ケル自由ノ希望ノ可成ル社會動搖ノ動機トナリ波動
トナリ人類社會ガ生レ出ル古クテ痛ムトナリ時ニ波
ニ徹シテ明カトハ所カル是ノ一ニ人類進化ノモト
トナリタルヤモ知ルカウニ又幾度カ人類ヲ
テ悲慘ノ境遇ニ置キ而シテ現ニ脅迫ニ突キハシテ刀

明治廿四年七月
稿

自治論

自治ニ二種アリ一ノ箇人的自治ト云ヒ他ノ團體的自治
トナラズ然レハ團體的自治ト雖モ各個自治ニ得ル能力
ハモノニ非ズニハ其有クテ美ヲ歛ム可キラスサハ在
會ニ重シ自主ノ權能ヲ全クシテ存爲ノ國民タル資格
ヲ修ムル一須ラリ箇人的自治ニ重キヲ置クガハ可キ
ラカハナリ各人ニテ完全ナル自治ヲ行フニトテ得ル
團體的自治何カヤラシク雖モ個人完備ノ自治タル
又容易ノ事ニ非ズ夫一人ノ性トテ放恣ノ流ニ易リ族
弄ヲ展シ易シ元ヨリ自治ノ目的ニ合セシテ務メレバ
夙ニ特定ノ義務シヨリテ放恣ノ奉動ヲ制止シ始モ個人
ノ國權ニ張シ國法ニ膺シ各其分限ニヨリテ自主ノ人格

ヲ主張スルカ如ク帝一或一統ノ権限ノ範圍ヲ知エハ
無ク社會ノ道義ハ定ルナリ國法ニ違フナキ一勿論
トニシテ其獨リヲ支配スルハ是個人自治ノ要旨ナリ故
ニ自治一定至ル能カク存シ多少教化ニ答ヘタルモ
ニシテ初メテ且ヲ見ハテ得ニ以テ完備ノ精華ヲコト
テ得可シ團體自治ノ制ハ之カ一進歩ニシテ例ハ國民
ノ教化善キリ自治ノ權能奈動ニ強固ナル奈遠ヲ視
及日テ後一中央官署ヲ行政ノ一部ヲ委任シテ以テ地方
自治俾ヨ作ハカ如ク團體的ノ自治一歩ニテ孤立ニタル
又ノ一非生物ノ非一様ノ有機体用ニテ活動
一統ノ責任ノ上ニ如個共利ノ利益ノ爲メシ權能ヲ主張
ニテ俵々ナリ帝一自治ノ制ニテ有欲ノ美界ヲ得ハニ在

明治三十五年四月

處世論

凡ソ人々社會ノ一員トシテ生存スル上ニハアリテハ處世
一大問題トシテ如何ニシテ世ニ處スベキヤ如何ニ
テ有終完美ナル生活ヲ導キ得ベキカコト就キテ一古
来ヨリ幾多ノ人々ヨリテ論交セラルタル疑問ナレハ能
ク論ズル者能ク行フテ能ハズ能ク辨ズル徒却テ其行
ヒ空虛ナルモノ多ク古来ヨリ一問題トシテ今日猶首肯
スベキ明解ヲ聞カズ然ラバ是ハ唯一ノ迷語ト過カ
ハカ否ナリ吾人が社會ノ人トナルヤ直接、間接、躡
當ハ可ク之ニ處スル、良否シヨリテ生涯ノ福利運命
裁断スルハ可シ所夫ハ處世ノ道偶也ニテ且フ容易ノ
業ナラザヤ語ヲ尋ス吾人青年ノ徒處世ノ何チルヲ解セ

社会組織の理ヲ知ラバ吾人の改々營々トシテ勉
ムル所ノ學問モ遂ニ其真果ヲ得ル其效ヲ奏スル無ク
シク死學トシテ莽リ去ラシムルニシテ學問一実用ヲ離ル
トキハ其眞價ヲ失フ哲學理學直接ノ実践ノ上ニ於テ吾
人々類ノ利益ト幸福ヲ増進シ社会ヲ利スルノ器械動機
トナリテユヅ大ニ之ガ價値ヲ綜ツベキモノナリ學志
スモノ大事社会ノ學問トシテ關聯ヲ悟ラズ其実践ト眞價
ヲ忘却シ學問ヲ知リテ社会ヲ知ラズ讀書スルヲ知リテ
実験ヲ嘗聞シシ末章ヲ論シテニカ根本ノ及ハズ常ニ
獲冠沐ヲ異ニスルハ我國學者ノ現状ニ於テ屢見ル所
ナリユニ主トシテ學問ノ何タルヲ知ラガハニ由ル抑モ學問
ニ雖モ亦社会ト學問トノ連鎖ヲ見カハニ由ル抑モ學問

自己單獨ノ聖人君子ヲ作ルガ爲メニハアラス獨斷製造
ノ目的ニモ非ズ直接或一關係シ吾人々類ノ爲メニニ宇
宙ノ真理ヲ明カニシテ大ニシテハ社会ヲ導キテ向上ノ域
ニ進メ福利増進ニシテニテハ箇人ヲニテ内萬無缺ノ者
トシシメ至高ノ幸福ヲ享受セシムルハ吾人學者
志スル徒然裡帯シニシカ實用ナル觀念ヲ斯獲シ須ラリ
學問トシテ社会トノ關聯ヲ忘ルルカラス而シテ社会ニ處ス
ルノ道如何ト云フニ處ニ一幸用ナリ現実ナリ處ニ方
針ハ分ケテ三トナス自己ノ觀念社会組織ノ觀念及ヒ若
動是ハナリ
人ノ最も貴ブ可クハ自己ヲ知ルナリ該ハ曰ク人ヲ知
ハハハ良キ智ナリ自己ヲ知ルハハ最上ノ智ナリト希願

想確立之自他福利、調和、高々ニ或系統、下ニ集團セ
カコト、完美ナル社会ト云フコト、ハ燦然タル社会
ヲ組織シテ十全ノ幸福ヲ欲スルモノ、ハ夙、社会組織的ノ
概念ヲ作り以テ社会ト云フ、本分ヲ全ウスコトナリ、
既ニ自他関係アリ之ヲ運轉シテ至大ノ効果ヲ奏セカハ
コトナラハ是、即チ活動ナリ自箇ノ觀念アリ、社会ノ組織
ヲ知ルハ雖モ西々相関係ニテ活動セザラシムコト、以テ社会
ニ属スルノ職ヲ致ス、コトナラハ自箇ノ高々ニ社会ノ高
ニスルアリテ始メテ社会ノ一員トシテ英價アリ確立セ
ル自箇ノ觀念アリ此基礎、上、活動ニ生存ノ場裏ニ馳
駆シ社会ノ福利ヲ計リテ、吾人處世ノ本ヲ全フコト
而シテ社会國家ノ一員トシテ聊カ恥ツル無キヲ得ンカ

十一月稿

丈夫ノ進路

衆人指モス、ハ口ヲ開テ壯語ス、ラク大丈夫須ラク正義
ヲ揚リテ事ヲ處理シ、名譽ヲヨリテ行動シ、營利甚モ關ス
ル所、ハアリト、其言ヤ誠ニ善ニ負、ハ丈夫ノ本領ナル可
シ、此ハ熟丈夫ガ由、獨ニテ若衆ナル行動ト壯大ナル
企圖ヲ割スル猶ユ、ハ餘クハ所多シトナシ、此言ヲ高ス
ユ、誠ニ前途、ハ人今ヤ世に新タシ、吾人ハ類ノ活動ヤ
昔時ノ比、ハアラハナリ、見ヨク、吾人ハ諸國一駭、ハ乎
ト、ハ文明ノ域ニ進、ハ雄ヲ片内ニ格、ハ一テ其威ヤ、ハ
カ、ハ東方ノ後、ハ割ニテ、ハ遂ウセ、ハ一テ、ハ入、ハ
時人文ノ河原、ハ教ノ故地、ハタリ、ハ東方ノ諸國ヲ觀、ハ
秋西、ハテ、ハ暗雲、ハタリ、ハ皆、ハタリ、ハ墳墓、ハ國、ハ

歐洲列國ノ屬國トナリ、或一其制憲ヲ委ケ、國民ハ自主ノ
力無ク、又唯在特ノ黄金時代ヲ夢想スルノコト、其獨立國ト
稱スルモノ、一物ハ、星ノ如ク、其カ少数ナリ、コトナラズ、
其影ヲ薄シ、支那ノ老、大國一、漸次露食セラル、ノ姿トナ
リ、朝鮮ヤ一、亦、西國古、未、獨立ノ能ナリ、其氏ヤ情、忍、其高
政、又、方、進、無、シ、今、又、日、露、ノ、間、ハ、在、レ、テ、終、キ、タ、ル、保、護、國
ノ、姿、ヲ、呈、ス、日、露、ヤ、幸、ハ、歐、洲、強、國、ノ、侵、犯、ヲ、被、リ、テ、終、ル、能、ク、
其、國、ノ、獨、立、ヲ、維、持、シ、文、化、ノ、光、輝、猶、舊、備、ナ、ラ、ザ、ル、也、
泰、西、ノ、文、明、ハ、為、レ、テ、自、己、二、千、年、來、迄、蓋、シ、タ、ル、東、洋、的、文
明、ハ、前、代、也、ニ、以、テ、漸、ク、其、世、代、智、頭、ハ、猶、ハ、認、識、ヲ、得、ル
ニ、至、レ、リ、其、他、大、諸、國、一、言、フ、ル、想、ハ、カ、ハ、モ、ノ、ア、リ、印、度、一
早、ク、筆、ハ、其、ノ、故、國、ノ、屏、シ、傍、ク、ハ、還、進、ノ、獨、立、國、ト、稱、セ、ラ

ル、アリト雖モ其真の得ズ、或ニク幸多ク取得スルハ過
キカハ可シ波斯並良比亞ノ地、睡風自カラ然々荒蕪寥々
七國ヲ吹キテ疾アルモノヨシニ轉々回腸ノ想アラ
ニム東洋ノ風愛急ナルノ言ヲ聞リヤ久シキ誠ノ實ナリ
家國ノ衰頹日敗久シク外急ニシテ内憂ニヤ今日ヨリ
甚ニキ一世ニ此聲瀾懸清之ヲ未ダ倒レガハハ還レ
トスハコトアリテ一須テリ家國維持ノ任ハ當ル可キ丈夫
ノ道路ヲ定ムルハ在リテ存ス、今ヤ社会痛々トシテ軟弱
滄靡ノ風ハ是レ傾キ、幸膏擢テ衞ハ皮想之レ做フ、壯士喪
浪鉄槌ノ氣無ク易水蕭々ノ慨無シ、爰ハ聲章ノ策ヲ講マ
カレシカ是レ實ハ熱船ノ中ニ坐シ、駭々トシテ深淵ニ赴
クモノヤリ、丈夫ノ進路ハ夫レ如何、此問題タルハ尤モ慎

重一吾人の研究スベキモノニシテ、エニヨリテ丈夫ノ
進路一定モ、國家ノ鼎立愈々堅キヲ得可キナリ夫レ國當ニ
兵備キ一箇人ノ屬シ且ツ雄キナリサレバ國家ノ安固一
箇人ノ自衛自主ニ存ス國家ノ統治權ノ下ニ服従スル各
箇人氏ヲ以テ戒ルモノナレバ、箇人ノ外ニ國家無キナリ
箇人自主ノ成ラズ有快ノ美ヲ享受スルヲ得ルカ
國家ノ安固亦燦然トシテ見ル可キナリ然リ而シテ國家ノ
盛衰ハ其國ノ丈夫青年ノ元氣ノ隆替如何ニヨリテ極メ
之ニナリテ得可キ一炳乎トシテ日月ヨリモ明カナリ然
ラハ國家ノ隆ニシテ向上ノ期ニ極キ、社会ノ變々トシ
テ月萬ノ目的ノ達スルニ須クテ丈夫進路ノ如何ニ見ル
可キハ、此大夫約クモ其真ヲ新ク重ク且大ナリ一ハ家國

ノ一貫トシテ其義ヲ有シ一ハ社会ノ一貫トシテ其自
主ヲ全クスルニ在リ故ニ夫レ進路ヲ定ムルハ今
日ノ急務ナリトス古来我國ノ弊トシテ童叟ヲ輕侮スル
ノ風アリ、箇人ノ道徳ヲ云々スルモノ一報母公共ノ道義ニ
関シテハ、曩モ謂フニハ一ナク、性トシテ亦觀ニガルモノ
、如シ見ヨマ現時筆筆ノ下ヲ去ルニ遠カラズ、足尾ノ銅
鑛ヨリ流出シ、未レ渡川ニ岸、民權毒ノ害メシ、其業ヲ
失ヒ、流弊散去或ハ飢、泣キ、湯ニ苦ニケモノ、幾希志士怒
涕ニテ社会ノ訴フル處アルモ、興藩殿ニハ一無ク、甚スル
者無シ、我政府亦採擷ヲ禁ルルノ能無キナリ、是レ一偏ハ
我國民ガ箇人ノ道徳ヲ云々スル一古来ヨリノ形式ニシテ
社会公共ノ害メシハ、度モ一臂ノ勇ヲ振フ無キ一是甚矣

リハ其ノ敬懼ス可キノ價值無キナリ夫ノ如シク夫ノ見ハ可ク取ル可キ一其心事ニアリ感奮ノ志アリテ而人後ニ非動ヲ起シ其行動ヲ偉大其功ヲ烈々丈夫青年ノ志氣振テテ國政ヲ外侮ヲ可シ思フ一東方ノ地東西諸國ノ威ニ服シ權ニ恐シ盲從屈服一歳ナラズ我國幸ニ東洋ノ風雲暗曠タル間ニ處シ魏然確立シテ機ヲ試ク一國ノ制ニ失キ義戰ヲ起シテ清ノ老大國ヲ懲ラシ再度帥ヲ遣ハシテ歐洲聯合軍ト共ニ北清ノ野ニ戰鬪必皆一有餘年日東ノ華瀦ノ關テテ歐洲諸國又舊時ノ侮ヲ檀々々然リト雖モ前途猶程遠シ我國現時ノ文明ハ唯是皮相ニシテ滋服其内部ヲ探シテ國民社会道義ノ念ニ是ニシテ公共テノ觀念ナリ單ニ歐洲ノ風潮ヲシテ處シ

其果的行動ノ勇無シ國庫空ニシ内閣ノ更迭頻繁ニ名士刺客ノ手ニ斃シ藩伐猶知ラ爲ス思フ一是ハ最難タル一貧弱國ノ我國人ノ最ニ怯リル一自主行動ノ實ハアリ相率ガリテ奮闘タルモ其志ニキナリ而シテ其程度々々ニシテ理想ニ若テ大國民ノ度無シ近時外資ノ輸入或ハ輸入超過シテ國庫空ニシ國民困疲ニ國內ノ衰耗甚シク爲政又亦讚美ス可キモアラズ外交ニ内政ニ教育ニ其或行美果ノ見ニ可キモ少ナシ現時我國青年志氣傾倒ヲ見ルハ其理想ニ依卑服ヲ得ル唯之ニ及々懐々タリ而シテ一度衣衾ノ處ヲ得ルハ懐心恙ヲ生シ勤効ノ聞エラルモ全ク効在ラテ精誠ノ伸士トナシモノ希々皆是ニナリサハ泰西人ノ生涯ヲ通シテ始勤効ニ時

問ク欲ク利用シテ能ク大成ラズルハトハ甚マ比較可
 ヲモアラザルナリ所々誰カ今日ノ國政ヲ刷新シ弊凡
 ヲ警章シ以テ我國威ヲ再興スル上ニ發揚シ國利民福ヲ計
 ルモノゾ謂フ可シ是レ吾人丈夫ノ責務ニシテ其本領ナ
 ラズヤ抑シテ二十世紀黎明ノ一盞ニ小國民ノ權度ヲ破毀シ
 徒ニ須ラリ舊時ノ思想ヲ一盞ニ小國民ノ權度ヲ破毀シ
 而シテ再興大勢ヲ活舞臺ニ膝餅ヲ注キ再興的行動ヲ以
 テ其本場トシ大ニ海陸ニ大勢ヲ制ス可キナリ目的々
 其ノ歎クノ如シ而シテ其手段タルヤ發展セル智カト全
 カノ合算ニモハ共ニ是レ活動雄飛ノ要素ニシテ何カ其
 一ヲ缺ヤンカ完美ナル活動得テ望ム可トテ之ヲ丈夫進路
 夫レニシテコリテ定ニシテコリテテ域ナラシムカナリ

十月稿

人生ノ三方面
 夫レ人生ノ目的如何ナルモノテアルカ何ノ爲メ人間
 ハ地球ノ上ニ生シ得テ居ルカト云フ一絶対的ニ
 中々ムブカニキ明瞭ヲ在テ古ヨリ猶解決セラレヌ様ヲ
 カル然ルレシヲ再興ノ人種中最モ高尚ナル地位ノ屬ス
 二々吾人々類ノ就テテ相對的ニ之ヲ講究スルハ餘能明
 瞭ニ吾人々類ノ生存ノ目的ヲ知リ得ルトカ申来ル即チ
 吾人ノ五脚莫ク基トシテ考ヘ見ルニ其一一吾人々類
 已ナル知識ヲ有テ居ルソレカウ吾人一一何ヲアルカ
 吾人一一何處ニ立テカノ此三ツノ問題ヲアル即チ自愛
 ハ各人一一箇人トシテノ方面ヲ有シ居ル又國家ノ一臣
 民ヲアリ而シテ社會ノ一員ナルニ凡シ人生ノ三方面

テアフラ其一ヲケクモノ一反性アル人固トシテ取ルノ
價値ナキキノガ今先ツ箇人物ノ方面ヨリ人生ヲ研究セ
ンニコレ又内外ニツノ方面ヲ有テ居ル内始ノ方面トハ
身神ノ健全ニシテ能リ外始ノ方面トハ何ヲ進行スルニ耐ユ
ルノ基礎ヲアルカラ人生トリテ尤モ中要ナル一ツコト
ルカハガ故ニ一方ハ性トシテ身神ノ健全ニ依リテ被極意
ナル病痲ハ悶ク鎖シ鉄軀能知リ内部ノ生存競争ニ打ケ
勝ケテ得ル得ル方面トシテ能リ外始ノ方面トハ何ヲ進行ス
得バキ學問ナル精神ヲ修養スル一尤モ中要ナル一ツコト
シアル外的方面トハ如何ナルモノナルカト云フ
ニ吾人ノ身神財産榮華ノ安固ヲ保持スルニ足ルニキ能
カラスヲ、ゾ換言スルニ、外始ノ方面トハ何ヲ進行スルニ耐ユ

三十四年
九月稿

民權自由論

愚ノ往昔羅馬ノ在貴族平民ノ二受相割據ニ貴族ハ平民
ヲ壓抑シ平民ハ其羈絆ヲ脱セシテ格闘既ハ教
年産殖ヲ閱シ一服一豚野ヲ墾メ鮮血ハ野徑ノ草ヲ
肥ヤスノ快劇ヲ遂ニ備ヘ民權ノ自由不羈獨立ヲ主張シ
漸リ恢復ノ途ニ就ク又進ニテ食富ノ二受トナリ相軋
スルヲ始シト一也及ハ及テ富者ハ常ニ貧者ヲ壓制シ貧
者自申ヲ能ハズ之ニ對シテ一層甚シキ苦戰ヲナシ轉國
幾幸食富賜他不利ノ弊ハ進イテ今日ニ及テ嗚呼民權自
由ノ世ニ生シ初メテ嗚々ノ啼聲ヲ舉ゲシメ古ニト云フ
可シ也蓋シ國法ナルモノアリテ生存競争ヲ制禦シ国内
雜食ノ弊ヲ遮断スルニ務メ或時代シテアリテ一土地ヲ依

有區域ヲ制限シタルアリ或一社會主義トナリ財產平等論トテ進ニテ民權ノ發達自由政治トナル國法ノ平等ナル國權ノ對抗ニ可キ私權アルトナリ國法一帝ノ國民自由權ノ發達ヲ保護シ唯一ノ權力ハ朕後セシメ自治國法ヲ認メテ國家ノ行政ヲ委任シ以テ行政機關ノ利便ト民福ノ享有ヲ主トシテ所謂中央集權ノ制ニ則ルに至ルハモノ偏ハ民權ノ發達ト自申ノ言存ハ外ナラズ民權自由論タル歟リノ如ク其根源ハ所遠ニ上ルキ其發達ノ或ハ達シタハ一實ハ較近シアリトス我國ノ如キモ泰西ノ諸國ノ權位ニ我國法ノ基礎トシテ後ハ立憲君主ノ政体ヲ構成セタリト雖モ南凡ノ望セザル日既シ久シク憲法發布マシテ一タリ以テ既ニ拾有表葛ノ筆ハスニ比

自由ノ華キハ開カズ民權ノ美果猶收ラハテ得ズ元ヨリ是レ我國泰西ノ文物ヲ輸入シ歐米自由ノ美ヲ慕フテリ日淺キ折以ヨリスニ一ニ譯タ筆ヲ可カラザル所ニテ泰西ノ自申民權ヲ享存セタル一數十年後今日ハ我國人ハ民權ノ自由ヲ稱ヒテヨリ年々國一ニハ僅カシニ十有餘年其間憲法ヲ布キ國法ヲ制定シ國會ヲ開キ以テ人格ヲ作り分限リテ大ニ國權ノ基礎愈シ堅ク愛シ於テハ自主民權ヲ發達シテ之カ發達ヲ期ス可キノ時漸ク至ルハ見ハ其速カキハ莫ク一後リ可キモノアリ強リ而シテ代ノ進歩ノ如キモ之ニ伴一テ猶ハ遠ク慎白ヲ呈シ未リテ今日及ニリ然レト雖モ我國人一永リ封建ノ制度ノ制憲壓抑ヲ被ムリ自主ノ權知ント熟スルハ申ナリ自由

華其藩堅之が蘇茅の肉を食ふに南凡の穀ヲ祇爛漫
タハ黨華ヲ見ハ至ルヤ容易ノコトハ非バサハ我建
國ノ有様ト因習信ヲナシタル封建孤立制政治ノ下ノ抑
壓トシ成教育ニタル我國人カ建共ノ觀念ハ久シク風
ニ團体的自治ノ志想ヲ味キ却テ利國孤立ノ不利ニテ
共同集團ニテ各共道ノ利益ヲ許ハ最大利ヲ得テ最モ
確全ニハルヲ悟テ是ハ我國作ノ上ニ於テ尤モ進マ可
キ状態ニテ大ニ戒慎ニテ華教ヲ施スルヲキテテ況
ヤ欧米ノ諸國ト共ニ肩ヲトシテ生存ノ幾走場裏ハ駈駆
セシト欲スルハ於テオヤ現行高政ノ方針ニ於テハ中央
行政官府ト級行政官府ト外ニ地方自治團體ヲ認テ其彼ノ
民権白重ノ發展ヲ基礎トシテ行政ノ一部ヲ此ニテ之ヲ機關使ス

計ハ至ルハ一是ハ我國行政上ノ一進歩ト謂フ可キナ
リ抑モ自申一國法ノ禁止セサル積極的状況ノ謂ニテ
自主目的ノ爲ムルハ否トハ其用ヲガハ履ナリ人格一
等ハ其範圍一行爲ノ自由ハ非ズニテ個人自主ノ爲ニ存
在スル權能ハニテ秋習積極的ノ状況ハハモナリ而
ニテ人格權能ハ三要素ヲ構成スルモ一身體財產榮譽
ニテ國法ニ常ニ社會ノ現狀ニヨリテ之ヲ認許シ且ソ
之ヲ保護ス依之頼此民權ノ發達一此個人ト格權能ノ發
展ニニテ國民ノ福利之ニヨリテ得テ可ク自由ノ果之
ニヨリテ歎ム可ク敢テ敢テ自主民權ノ自由ナルヲ認メ
去ハ處ニ若クハ一人格ヲ侵スルノ行爲ハ一事者ノ争訟
ヲ終ニ監督若クハ裁判ニヨリテ之ヲ排除セシタルノ制度

漸ク修養ノ途ニ上リシニ主憲制ノ別ハ美果ノ一ト云
フキテリ自申一權利ノ非ニ自主目的ノ爲ムルハ非
ガハ一前場ノ如シ然リ而シテ軍民下ル自由ノ安全ト一
秋諸法律ノ又射々ハ場合多シ即チ國家一軍ノ行政権存
ノ權限ヲ制限シ又ハ公益公安ノ爲ム一般ヲ警戒スル
告異一人格ノ自由安固ヲ致スル如シサハ民權自主ノ
榮度一主タリ人格ノ自由安全一之カ省タリ思フシ母
一生ヲ愛リハエ一トシテ自主ヲガハモ無ク見
亦自然ノ意ナリ國窮シ兵強ナルニキ一壓制ノ民ノ求
可カラズ見ユヤ彼ノ我本合洲ノ自由國ヲ夙ニ自由協立
ヲ欲シテ大英國ノ華洋ヲ脱シ早ク民權ノ發展ヲ認メテ
國權伸張ノ伸張ニ文明ト稱一自中國ト誇リ文化ノ中心ト

ナリ駁トシテ歐洲諸強國ヲ凌ギ今又其停止スル所ヲ
見テ想フ昔耶蘇ノ壯國歐洲ヲ席長スル一症凡ノ外塵ヲ
差リカ如クヤオロロ一一致地ニ在シ遠シ如クトハ
一ナシ心ニヤ一テ太正年ノ月轉々奉天豐谷ノ霸氣膨脹
トシテ森林八道ヲ據ル一中國之懼ニテ勝齒谷ハス偏シ
和義ヲ講シテ一時ヲ適造ニタリ其雄其國共ニ見ハ可シ
ト雖モ文化ノ終遠人權ノ自主ニ於テハ莫ク利スルトナ
リ却テ之ヲ一破壞スルニ獨リ專然タル是日長零々
寒血淋漓タル戰場ノ場ヲ照ラシ皇島時日ヲ行人一擲
疾風天ヲ掃スルハ彼ノ三十年戰爭ノ如キ全歐土
チンチ羽タル暗雲ノ下ニ埋メ人遺地ヲ拂ヒ又幸天無
リ「ケスタ」アハ「」暗鳴叱咤ニテ凡馳騁擊一劫ニシテ

文化國義ノ都市化ニテ樺島ノ地トナリ柵場凡ニ歐ヤテ
千里ノ目ヲ傷エシム盛産林ノ果ヒ桃李山野ノ間ヤ又附ノ
中心タリシ歐王直ト無人ノ砂漠トナリ古時ノ其是況
イ破タリシモノヲ獨ニ國トナシ嘆人生意氣ノ感口ノ此功
名華ヲ復論セシ流火去テ幾年委ノ節日文化ノ華商英ノ
文明ノ凡復々翻テ思フ北米自申四ノ建國ヲ見ユキ
者時獨立ノ苦ムヲ婦女走辛クシテ自由ノ旨ノ英ノ
ニトシ自主ノ旨ノ幸ヲ熾セシト誓セテ三洲は一ハワシ
ニトシテ抑シテ者領トニ轉戦言ノ十二弱國ニ獨立ノ
屋ヲ全クセリ芙蓉麒麟時並既ノ五旬ヲ過キ國家難雜ノ
向佛王ノ談ヤ英王ノ論ニ逐シ術無キヲ知り自申ト共ノ
倒ニシト誓ヒ開關奔走席暖カナルハハ服アラウス
歐洲強

國ノ君王ノ遊教ノ遂ニ佛西兩邦ノ君相ヲ感服シ以テ合
從ノ盟ヲ結ハシム米國ノ獨立公ノ力ハ似ハスノ眞ニ多
シトナリ列々タルワシニシテ切一自由ノ存在ト共
ニ永ク米國ノ獨立ト共ニ長一ナリ其公ノ名一貴府凱旋
内ノ地リ青莖滴ニ露一甚ノ瘴癘ノ存存トナリ鳴
呼喊トハ我米人ノ義舉嗚呼壯トハ我米人ノ四々壯々觀
ハシ東亞ノ地陰雨珠露トシテ時時猶駭ヲ解ルニ山河蕭
々如利依此トシテ更弊ノ昔ヲ語り暗寐日夜辛勞ノ遊ヒ
道魏猶醒トス洛暉西山ノ揚々晚風水波ヲ揚ケ杜鵑啼
啼々極目蕭々空際陰々ハ望月ノ空ノ如ク或ハ悲凡空
ニ泣キ落日長無ク鳥鴉蒼柳ノ啼々ハ股袂ノ似タリ梓
古岸散ノ故地トナリ文章奉送ノ河原タリニ東洋ノ地一

是() 吾輩々々増墓() 此() 神() 西流() 佛
院() 文明() 轉() 胎() 道義() 壞() テ 孔孟() 道() 亂() 不() 工() 何()
國() 獨() 立() 後() 匪() 國() 民() 得() ケ() 東() 亞() 增() 墓() 石() 苔() 拂
ノ() 申() ナ() リ 遊() 子() 猶() 嚙() 神() ノ 露() オ() ス() 知() ラ() フ() 借() 向() ス() 我() 帝
國() 風() 東() 亞() ノ 一() 端() 立() ケ() テ 能() ク 其() 獨() 立() ヲ 確() 持() シ 亞() 米() 文
明() 主() 義() 一() テ 二() 十() 年() 來() 維() 持() シ 未() 一() ハ 生() 氣() ヲ 喚() 起() シ 能() ク 之
ニ 互() セ() シ() 一() ヲ 本() テ 慈() ヲ 々() タ() ル() 長() 一() 年() ヲ 賦() リ() ト 雖() モ
民() 權() 猶() 衰() 遠() 途() 上() テ 内() 政() ニ() リ() テ 外() 事() 多() 内() 閣() ノ
更() 迭() 屢() ニ() テ 行() 政() 立() 脚() 礎() 弱() 上() ニ 烈() ヲ 人() ナ() リ() 一()
翼() ヲ 制() ナ() シ 兵() 革() 勢() メ() テ 國() 財() 彈() 力() 外() 辱() ヲ 受() ケ() テ 西
ノ() 申() ナ() シ() 之() ヲ 思() ヒ() 一() 戒() 胆() 一() テ 懼() ヒ 汪() 江() 流() 泣() セ() カ() ル
可() ヤ() 一() カ() ル() モ() ノ() ア() リ 東() 亞() 增() 墓() 東() 亞() 聖() 地() ヲ 護() ヒ 難() 矣() 哉

一月稿

社会的身体

吾人身体ノ安寧ヲ維持シ安固ヲ享受スル方面ニ一ニツ
ナリ一ニ自己身体上ノ健康ノ保持ニ一ニテ他ニ國家社會
ノ一貫ハ一ニテ自主ノ權ヲ主張シ申テ以テ治護ナル行動
ニ資スルニ在リサレバ吾人身体ノ内的安寧ト外的安固
ノ保持ハナルナリ夫レ吾人ノ内的安寧ヲ維持スルニ其
基礎根莖ニシテ吾人ノ身体ノ健康ヲ毀ルアラシムル治護
ナル行動ノ源泉地ニ在リト社会的快樂ヲ享受ス充合ナル
權利ヲ主張スルヲ得カントナリ是レ夙ニ内的安寧ハ吾
人ノ尤モ重シトナスルモノナリ抑モ吾人ノ内的安寧ハ吾
人ノ自衛衛生ハアリ夫レ人ノ健康ハアラズル快樂
ト比美ノ根柢ニシテ尤モ貴重ナルモノナリトモ聞ク々

又尤也仍諸之階々うし易ニキモノニテ學オアルモノ
ハ大幸其身存ヲ薄弱事ヲ爲スハ適セズ才子多病ハ一
人ノ常ノ口ニ歸矣スハ所ナリ泰西ノ人ハ比之ハ我國
人ハ大概内的母寧及強持ハ於テ故如スハ所ナリセズ
其身存ハ短小臂力弱ハニテ其能亦短カシサレハ徒ラ
活動ノ餘地少ナリ其行動ヤ薄弱ナリ其他資力ノ曠ハ於
テ見ルモ彼ト是ト一優劣軒輊ハ比ハ非ガレ可ク從テ學
術在業ノ上ハ於テ更ニク其境ハ做レ其後ヲ追フニ過ヤ
カニテ帝ハ下級ハ立フ所以ナリ思フハ社会ノ組織融
複雜ヲ加ヘ生存ノ競爭日ニ目ニ盛ナリ此競争場裡ハ立
テ優劣ヲ敗ノ舞臺ハ生活シテ以テ自己ノ安寧自由ヲ得
ルハスルハ一第一ノ要件トシテ外的安寧ハ保^持受テ有ハ其

リテ存スルハ一第一ノ要件トシテ有ハ其
吾人々類ハ常ハ内的安寧ヲ得ルハ及々々うガレ可カ
ガハナリ何ハナレハ内的安寧ハ外的安寧ヲ産ムノ母ナ
レハナリ吾人ノ身体ハ時々刻々変移シテ莫ク静止ノ位
置ハアルハナレ即チ或ハ生長ハ肥大シ或ハ老衰季度
ニ轉テ止ム時無シ夫ハ然リ而シテ外部ヨリハ常ニ無
数ノ病的的徵候ハ轉々シテ其衰弱ハ某ニテ未嘗セシ
コテ待テ据ヘ前線後尻ハ喉下ヲ中ハナリ吾人ハ一ハ
聲ヲ澤ケ描概ニ安眠スルハ爾時ヨリ老衰シテ三才鳴絶
ニ蓬泉ノ人ト爲ルニ至ルマデ此強健ヲハ可キ外敵ハ對
抗シテ能ク其生存ヲ保テ得ルモノナリ外敵ハ防衛ハ所
エガレモノハ論ムトシテ鬼府ノ鬼トシテ連日去リ之

研ルモノ能ク生存ヲ全ウス之ニ萬物ノ間ヲ通シテ
一定不易ナル自然ノ法則ニモテ宇宙間ノ創造物ハ斯ク
如クシテ淘汰進化シテアルナリ外敵ニ對抗シテ
生存ヲ全ウスルモ或一其度ヲ得或一其度ヲ得ガハモ
アリ吾人能ク生存ノ度ヲ定ムル其有欲ノ果實ヲ享有シ
社会的快樂ヲ得ントスルニ職ニシテ身體ノ自衛ニ注
意スルニアリ之ニ人々各多少ノ醫學的觀念ヲ養ハサル
可カラザル所以ニシテ之ニヨリテ先美ナル内的安寧ノ
實ヲ得可キナリ外的安寧ノ實ヲ得ルモ亦容易ノ業ナラ
ズ國民一社会ノ道義ニヨリテ從ヒ國權ニ服シ國法ニ應
ジヨリテ生活シ之ニヨリテ行動シヨリテテ
死スルモノナラバ吾人一國家社会ノ一員トシテハ猶ホ

自主存在ノ度ヲ享有スルニアリ然レバ吾人ハ如何ニシ
テ自主生存ノ利益ヲ享有シ自存目的ヲ達スルコトヲ得
キカト云フモ吾人國民ハ常ニ國權ノ服膺人可キ一勿論
ニシテ國法ノ何タルヲ知り猶社会組織ノ上ニ於テ吾人
々類一如何ナルモノナルカヲ辨メザル可カラザルナリ
是ニ唯一吾人國民ノ自主存在ノ利益及ビ目的ニ合スル
ノシテハ一國民ノ義務ナルナリ百尺桿頭猶一步
ヲ進メテ各個人ハ社会生存ノ競争場裏ニ活動シテ先美
ナル自存目的ヲ得ルニ内的安寧既ニ具備シテ後
ハ智力ヲ養ヒ學問ヲヨリテ萬般ノ知識ヲ得以テ人格
ヲ練リ智力ノ發展ノ資シ社会ノ上流ニ雄飛スルノ能力
ヲ作ルニ是ニ外的安寧ヲ得ルニ一要素ニシテ他ニ一要素
三

素タル可キモノ一相當ノ資産ハアリ語。曰ク恒産ナキ
スノ一恒慮心無シト。理ナル哉言ヤ博學多才ナリト雖モ
活動ノ資無クシハ事ヲ爲シ難ク空ニシテ草莽ニ危言スル
ナルハ心内ニ巨萬ノ資アリ猶預ノ富ヲ積ムト雖モ之ヲ
シテ有益ニ運轉スルノ智力無カラシカ之レ兵無用ノ長
物トシテ止モラシメサレハ均クモ現時文明ノ再興ハ
活動ノ外的ノ安固ヲ保持シ社会的生活ノ快樂ヲ享有人
ルハ一常ニ此ニ條件ヲ缺如ス可カラザルナリ故。曰ク
自在生存ノ要ヲ得ルハ一智力ヲ全カクノ合縱ニテ活動
競争ノ古勝ヲ千里ノ外ニ期スル銳利ナル武器一智力ト
全カクシ社会ノ目的ハ内萬ナル箇人ヲ得ルハナリ國家
ノ目的ハ箇人ノ利益享有人存人箇人ノ安固一此ニ在リ

三十四年十一月稿

星亨君ヲ回想シテ
之ヲ論評ス

回顧スルハ本年六月廿日我有烏ナル政客地刺ノ変ニ逢
ヒテ東京市参事会々議室ニ幾ル月ヲ関シスルニ後ニ三
月政界君ヲ失ヒテロリ蕭瑟聲無ク脱秋ノ旦ニ似タリ今
々國事多端ノ秋外資輸入金融逼迫ノ聲四方ニ起リ我經
済ノ擾亂其極ニ達シ外一外辱ヲ被タリテ雪クニ申ナク
國事日ニ日ニ非ナラントス此時ノ處リテヤ君ヲ九泉ノ
下ニ送タシム以テ君ガ能力ヲ政オチ用ハラシムルハ
幾分救済ノ法無シトナリス予輩此等ノ諸賢ハ於テ一大
ニ君ノ暴没ヲ悼惜シテ置カガハナリ君マ身元ト卑賤外
患ノ強壓ニ堪一テ良ク貧困ニ勝テ苦楚ヲ凌テ初メ如

風、英吉利語ヲ學ビ、倒ラ種字ヲ講ビ以テ泰西ノ事情、
通シ失進ノ基礎ヲ作セリ、身諸方、彼リ直ニ萬般ノ刺激
ニ接シテ強抗ノ一意能ク之、時ヲ得タリ時ナル哉、清龍
騰、燕、機至ヘリ、陸奧宗元神左川縣知事タリニ時、君、才
學アルヲ聞キ、故置シテ、橫濱稅關吏トシタリ、後、稅
關長ノ椅子ヲ得ルヤ、當時英國ノ公使タリシ其ノ女王女
皇ノ翻譯ノ適否ヲ論シ、我國外懼、皇ノ熾ナリシ中央、立
テテ大ニ之ト廷爭論、駁シ、次テ新皇冠ヲ懸ケテ其椅子ヲ
下リ、又是一君ガ茅一着歩トシテ、豪放不屈ノ氣力ヲ發展
シタルノ時ナリ、君又其知メ外務省ノ一下級官吏、今マ稅
關長ノ椅子ヲ得之ヲ批シテ觀シ、是ハ確カ、君ガ斗升
ノ粒、其意ヲ獲ケス以テ他日大ニ其力ヲ喚發シ得可キ

能カト、期スル所ノヤナラザリニテ、願フニ足ルナリ、宗元
風ノ君、見ル所ナリ、稅關長ノ椅子ヲ下ルマ直チ、我政
府ノ交渉シテ、君ガ英吉利ノ留學セシム、此ハ於テ他日
事業ノ奮見シ能ク、政界ノ波濤ヲ排シ、權變ノ機微ヲ制シ
望ク、天下ノ稱呼スルノ蓋要ヲ作セリ、英國ノ留學ニ
テ數年、得テ歸朝シ、司法省組合代官人
トナリ、次テ東京組合代官人トナリ、其後自由新聞社長ト
ナリ、民權ノ發達ヲ鼓吹シテ、時ノ政府ノ勸告ニ新黨トシ、
テ黨派ノ事治安、抵觸スルノ故ヲ以テ獄ニ下サレ、在
テ、神奪ヤ、後再度代官人トナリ、テ、雄飛ノ基礎ヲ作り、
第三議會開会セラル、衆議院議員トシテ、櫻田セ、
邊、議長ノ椅子ヲ得タリ、過アリ、ト稱セ、
ニ

生（註）次（註）昨此三年伊藤内閣ノ入りテ虛信大臣トナリ籍
ヲ政友会ニ置テ又君ノ政友会ニ在ルヲ採縦宜ニキヲ得
權ニ臨ニテ應ニ遂ニ之カ主領ト爲ルニ至ル君カ政海
ノ濁レテリ内能リ筆下ヲ指揮シ略ニ事ハ可カラカハノ
勢カヲ養ヒ自ニ夫命ノ能カヲ尽シ外ニ猛然トシテ勢カ
抗セリ思フニ君カ四面楚歌ノ聲ニ立ケテ向テ敵無ク
其勢力衰一ス益々事業ニ奮見スハヲ得タハ一由テ奉ハ
所深ニト云フ可シ君性剛強其膽キ大權勢ヲ以テ等トテ
ニ効務ヲ以テ経トナシ其進ハマ鶴翼其退クマ與謀ヲ
惟懼ノ内ニ計ラシテ隙ヲ千里ノ外ニ期スルハ一アリ君カ
性角然坐東隅的ナラズ能リ金ノ價值ヲ解ニ又能ク兼看
ノ何者ナハカヲ解セリ是レ君カ權勢由内ノ攻撃ニ遂ヒ

テ益々振（註）又然（註）一七敵手ノ攻撃ニ漸ク威ヲ逞ラシ（註）
輿論ヲ動カスニ至リ君カ勢力ト活動ノ不片ナハ厚取
ハ金カノ智カトノ合縦ニテ加フルハ剛愎不撓ノ精神
ヲ以テセリサレバ君效等ノ資ヲ得ルハ汲々勢トシテ
儘ニカリキ是レ大レ君カ生存益々場裏ニ沛ニ勝ヲ制シ
タル所以ニシテ他ノ方面ニ於テ一遂ニ君ヲ暴殺セシメ
タルモノナリ思フニ是レ他無シ進クテ知リテ退クテ
ヲ知ラガリニガ爲メニ若シ君ニテ少ニリ觀ニハ所
アリテ此權ニ臨ニテバ猶外極ノ勝利ヲ制スルヲ得タ
ハナラシカ聞説君ニ非常ノ讚美料ニシテ其藏スル所ノ
書籍教誨冊ニ達ニ其性行ニ正楚並ノ所謂建世篤情ノ風
無ク書ヲ以テ人抑リ諒リ苦楚ヲ嘗キテ體力性ノ性角ナ

養ヒ又サレバ其原直ノ如キモ類ハ霞ク照タハモノアリ
 キ照リト雖モ若風ノ金ノ真直ヲ露リ解ニ過ヤタリ權勢
 之ノ喜口ヲ獲モ是ヲ得ハノ道ヲ者ニガリキ鳴呼此欲ヤ
 大ノ君ノ高メハ憾コトナス祈ナリ君座信大臣ノ將子ハ
 在ハヤ朝廷ノ額政敵始ト攻撃ノ矢尽リハ一軍トス
 當時東京市老事會負收賄ノ事在リ政敵新聞紙上ヲ書モ
 又之ハ坐スハト格ノ攻撃日ハ他エス遂ニ輿論ヲ動ヤス
 ニ至リ君又又ハ救ニ難リ一時皆ヲ拭ケテ再臣野ニ下
 リ次テ東京市老事會長トナリハ一政友會ノ主領トシテ
 之ヲ操縦シ他日飛奔ノ機全ク成リ權勢皆々前日ノ比シ
 非ガハナリ當時東京市事多端運夜成リテ人々由タリ
 君在之ヲ愛シ市老事會為望シ之ヲ議々ノ時遂ニ獲テ之ヲ

一月稿

國家的觀念

第一章 國家ノ意義

夫ノ國家ノ要ハ國民最大ノ幸福ヲ享有シ相互円萬ナル
 福利ヲ取得スルニアリテ國家ハ常ニ民福ノ増進ト社会
 ノ進歩トヲ計リ漸次向上シテ之ヲ成ル一有機体ト見
 做ス可キモノニテ其要素タルニキモ一一定ノ土地
 人民及ビ統治權ニアリテ國家ノ主ナル目的ハ人類至幸ノ
 域ニ達シ社会ヲシテ榮達進歩ノ歩武ヲ神域ニ進メシム
 ルニアリ國民一國家ノ一員トシテ之ヲ總括シ國家主權ノ
 下ニ服征シ國法ニ従一社會道義ニ應シ以テ國家榮達シ
 資ニ可キノ義務ヲ有人土場ノ如ク國家ノ成立ハ一仕ニ
 マ此三要素ニ紐リ可カラザルモノニシテ國家ハ別ニ其

其箇有之ハ所ノ生命ヲ以テ奉動ス之ハ猶箇人カ國家社
會、一眞ニテ獨立シ行動シ得ルハ同シ

政虎ノ試験

余等ハ嘗テ我政黨ノ沈衰振ノ能ハサルノ現状ヲ論ジ之
カ原因ハ一ニシテ我國勢カ何時ニカ政虎ノ權傷レセル内治
問題ノ時代ヲ去リテ海外發展國勢擴張等ノ對外問題シ
能ク過渡ノ働作ヲ爲ス能ハル政虎ハ以大勢遷轉ノ時機ニ際
中々ク臨シテハスルニ在ルヲ聞キ以テ其極者ヲ信シタ
リ彼等ノ中ニハ取リ難ク問題ノ消息ヲ解スルノ明アルモ
ハナルニシテ唯今日ハ議論ノ時代ハアラマシテ奉動ノ時
代ナリ然ルニ何レノ政虎ハ於テモ未ダ能ク國勢を振興
大勢ヲ指導スルノ奉動ヲ示シタレモイラズ
各政虎ハ今々皆試験ノ時代ニ在リ而シテ試験ノ別無シ

十月廿七日(清夜)

内治同敷シヤラマシラシテ対外同敷ナリ我國民ハ改メ世界ノ局面ヲ適云致年ノ間ハ長ク著シク變更ヲ求メ帝自主義ノ大勢ハ今又再興的改流トシテ其我力的タルト平和的タルトヲ問ハズ我帝國ノ四周ノ開闢ハ来レル結果ハ我國ニ亦勢民族膨脹ノ潮流以外ハ立ツ能ハザルヲ知リ得タリ我國民ノ一齊ニ希望スル所ハ國勢ノ膨脹ナリ國民ノ充實ナリ而シテ以テ希望ノ成行セラルトナリ能ク以テ大勢ノ策ニ國家ノ指導ニ任ズマキ人物ノ若動シテ今又我國民ハ此泰康ノ時代ニ處シテ能ク國勢ノ膨脹ニ適應スル政策ヲ厲行シ國民ノ指導ニ任ズラテ誤ラザル人物ヲ求メテアリ我改流ハ正シ此問題ヲ以テ國民ヨリ試験ヲ受ケテフ、ア、ル、ニ、タルヲ自覺ニガハルベカラ

政虎ノ若動ハ内治問題ニ便シテ対外問題ニ利アラズハ、非政虎論者ノ説ク所ナリ我國民ノ如ク一帝心主義ノ旺盛ニ趣ケル以テ我改流ノ勢力頗ル衰殘シテ復任ハ人権問題ニ於ケルガ如ク反論ナリ英國ノ在ラズ大勢ノ進轉以來自由党ノ勢力意欲共ニ銷沈シテ我改流ノ行ハ初以前ノ如ク壯觀ナキニ至ルヲ換メ以テ我改流ノ沈衰ニ吾思ハ大勢ナルガ如ク論ズルモノアリ帝國主義ノ勃興以來何レノ國ニ於テモ我改流ノ沈衰ヒ一事實ナリ也ニ思ハ元則シテアラズ我改流ノ近者然レト帝國神權ノ思想ノ復舊ニ皇帝ヲ仰テ膨脹主義ノ權化トセムガ如ク特異ノ國ニ在テ我改流ノ振ハガハル始ヨリ云フニ足ラズ

之ヲ英國に見ル。帝國主義興テ自由黨振ニタル。アラ
ズ唯同党ガ帝國主義ヲ大勢トスル時代ノ中心シ立テ能
ハカリシ。是レ因ル。之彼ノ保守合一ノ聯合党ガ國民
ノ重望ヲ並フヲ未嘗有ノ盛運ヲ示セル如ク又自由派
在ラズ近時漸ク時代ノ中心シ進シ来リテ自由帝國主義
ヲ唱導スル。ローズベリノ脚ガ傾シ信望ヲ増加シ来ル
如ク皆明シ。政黨ノ派長ガ才力ニモ対外國ノ興否ノ関
係セザルヲ蓋スルモノナリ。罪ハ大勢ノ進轉ノ筆ノ時代
ノ中心シ立テ能ハザル。政黨ノ失態ノ疑ニザル。カラス
英國ノ自由黨ノ如ク思ヘナリ。而テ我國ノ各政黨ノ如ク
亦坎壈ナリ。此ノ如ク政黨ト既ニ榮ニ國勢ノ新ナルハ
共ニ又有家ノ旗幟ヲ新ニシテ進シテ大勢ノ指導ノ任スル

アラバ其勢力一更シ強固ニシテ其存在一更シ必要ナル
モノトナラシ。我政成政黨ノ果シテ坎壈力アリヤ否ヤ今
日ニテノ試験ノ成績シ微スレバ余輩一願ニ心細ク感テ
又能ハズ。

自然觀

天一覆也地一載也上下茫々三千載天地ハ大ナリト雖モ
 其代均也萬物多シト雖モ其治一也吾人ハ類ハ幾千載ノ
 往古自然ノ親シク自然ノ舊徳ノ治ニテマリ以來迄亂興
 ニ幼現海嶽ノ跡史策之ヲ示スニ宙ヨリ香トシテ視ル可
 ヤイ刀ト雖モ自然ハ猶若クニテ永劫ノ岩類ヲ觀ン宇宙
 ノ萬物亦轉物動ニテ止ムカハモ天蒼然トシテ長一
 變又テ日轉一星々トシテ寧シ萬物ヲ扶養ニテ卒動ノ原
 動力ヲ含具シ王兔ノ靈雅ナル天ヲ以テ薄暮ノ空ヲ飾リ
 西山ニ暮ソリ太陽ノ代理者トシテ無教ノ星辰ヲ伴フ未
 リテ若蓮金鱗ヲ躍シシ辭氣壁ヲ吹ク大弄ノ水ニ終始瓊
 環ニテ蓄リテ歌ハ時ナク岸崖ニ碎ケテ一白未嘗テ吐キ

三十四年
 九月稿

略確、觸、一、如、勝、雷、霆、生、石、長、一、天、地、長、久、ヲ、謀、欲、
大、其、命、命、山、岳、士、ノ、峰、千、古、ノ、簪、立、一、テ、旭、暎、霞、峰、ノ、映、ニ、テ、
金、華、爛、々、ア、ロ、ソ、ン、ミ、ス、ソ、ビ、一、坪、脚、ヲ、置、キ、テ、揚、ル、大、海、
一、潮、ニ、テ、其、尽、キ、ル、水、ヲ、見、ス、四、季、廻、リ、晝、夜、更、迭、ニ、テ、
一、ナ、リ、晴、雨、氷、雪、時、ニ、從、テ、其、色、キ、テ、得、或、ハ、雷、霆、空、ニ、連、々、
タ、リ、晴、シ、雷、光、閃、ム、一、テ、自、然、ノ、威、大、ヲ、嗟、呼、大、キ、ル、
哉、年、甲、鉅、釣、ノ、戲、々、萬、物、一、時、ト、共、一、自、然、ノ、功、則、一、從、テ、
轉、半、改、又、ル、ユ、ト、怡、モ、水、上、一、庄、ニ、ハ、如、シ、サ、ハ、人、
生、ノ、短、キ、ヲ、ハ、生、存、ノ、屋、廬、ヨ、リ、天、地、長、久、ニ、テ、春、林、尼、キ、
ガ、ハ、一、テ、禁、ル、ハ、能、ハ、一、テ、去、單、用、胎、動、物、一、イ、ガ、知、ラ、ズ、
一、ニ、テ、禁、ル、ハ、能、ハ、一、テ、去、單、用、胎、動、物、一、イ、ガ、知、ラ、ズ、
復、細、胞、ノ、動、物、ト、ニ、テ、我、身、ノ、生、存、ム、ル、以、上、一、ニ、城、ヲ、克、ニ、

ガ、ハ、一、取、一、學、理、ヲ、表、示、ス、ル、汎、シ、ヨ、リ、テ、明、カ、シ、之、一、又、
自、然、ノ、數、十、リ、歟、リ、一、雖、モ、人、類、一、帯、一、年、殖、細、胞、ノ、コ、リ、テ、
無、妄、一、其、子、孫、ヲ、延、続、ニ、テ、止、ム、一、リ、天、地、ノ、長、久、ト、其、壽、
ヲ、共、ニ、ス、サ、ハ、一、吾、人、一、死、ヲ、觀、ル、ハ、一、夜、想、ノ、七、城、ニ、テ、
人、類、カ、如、思、シ、存、在、ス、ル、限、リ、一、吾、人、カ、決、ニ、テ、死、滅、ニ、タ、ル、
一、非、ス、ト、謂、フ、可、キ、ナ、リ、一、熱、自、然、ノ、大、觀、ヲ、察、ス、ル、ハ、一、萬、物、後、
動、變、轉、ニ、帯、一、相、循、環、ニ、テ、増、減、無、ク、大、一、蒼、天、一、揮、リ、無、數、
ノ、星、辰、ノ、リ、十、一、顯、微、鏡、的、至、如、至、微、ノ、物、体、ノ、至、ル、迄、轉、々、
蠢、動、ト、ニ、テ、活、動、ノ、傳、ニ、ル、一、水、ヲ、知、ラ、ズ、一、時、一、萬、物、ヲ、變、フ、萬、
物、一、時、ト、共、一、變、移、ス、衰、一、於、テ、カ、知、ル、變、代、一、萬、家、ヲ、作、ル、
一、基、一、ニ、テ、具、萬、物、ノ、本、體、ナル、コ、ト、ヲ、蓋、誦、一、謂、フ、今、年、花、
落、顏、色、改、明、年、花、開、復、誰、在、一、已、見、松、柏、堆、為、斃、更、聞、桑、田、變、成、

海古人無復洛城東今人還對落花風
誰足成轉城府能幾時須臾鶴髮如絲
但有董香鳥雀悲嘆是其一其自思變轉
一十人人生一厭世的無常觀
觀羅門櫻花一陣一夜半
リ先凡ノ骨子一散ノ雪霧ノ散一テ先暗瞻人生ノ朕口
キヲ又欺リノ如之寧口千歳母ヲ厭セ去テ上僊ニ彼白雲
ニ来コテ帝卿ノ至ランニ一ト是ニ唯ニ人生裏面踏及ノ
一端ノ暗馬牛ノ心ニ珠璧ノ異々タルナカラカランヤ
夫ノ宇宙存在ノ理ト自思ガ萬物ヲ扶養ルハ故以テ其德
代ノ大ヲ觀セテ自カラ悲觀の迷信ト厭世的ノ宗教ヲ
トヲ棄テ、吾人ガ使大ナル太陽ノ光ヲ執トシ答ムルガ

如ク自思ノ大ヲ觀ゴ宇宙萬物一宇宙原則ニヨリテ變遷
ニ吾人ヲニテ漸次歩武ヲ神域ニ進メ自思ノ徳代ノ洛ニ
仁蕙無尽ナル自思ノ扶養ヲ受リルハ皆ニ後見ガ母ノ懐
ニ眠リ乳房ヲ咥ムカ如クナルヲ悟ラバ人類立脚ノ地
愈々堅ク吾人ガ萬物ノ尖學者トシテ其如ク塵芥ノ渣
無明ヲ排除シテ高峰ノ霽日ヲ見シト倉ニ或在ハテ知
ハ吾人ト類ノ責務炳然トシテ明カナル可シ思フシコト
ハ必シク流一途ニ使エズニテ死海ノ救一長ニ蒼ニ望峰
ノ月一永知シ明カリ隨喜為仰ノ疾ハ不健ノ泉ヲテ人流
天去テ三千載杏トシテ考フ可ヤリガハノ在昔既ニ業ハ
宇宙構成ノ使大ト自思ハ環環柱ニナキ無尽藏ノ源泉
チルヲ説キタルモ流シテ正トナリ迷信トナリ人類陞位

阻害ニタハリ少ナク言ハレバ吾人一自然ノ至
大ナル徳代ニ老シ自然妙理ノ靈友ニ吾人高潔ノ理想ヲ
若クシテ人自王生有ノ実ヲ至リニ至大至高ノ域ニ進ム
得一之吾人々類カ生ヲ好ムハ其ノ以テ以テ意ハ合ニ且
フ又吾人ガ有テ所ノ責務ヲ全クスル自以テ意志ノ適在
ムルコトヲ得ンカ
岸南ニ芝草トテ限リ無ク天柱地偉長一ニ悠々日月无
光輝アリ星辰輝テ照々爛々天文ヲ解リ地ニ章ヲ展
ス白雪飄々トシ岫ヲ廻リ泉水潺々トシ流リキク蕩々
タハ大海痛々タハ大河岸正澤蘭郁々青々余舞淡刺トシ
テ躍リ民夷芬然トシテ舞ヒ飛鳥共ニ舞フ自以テ肉體ノ
弄ハバ是ハ真箇ノ學園ニシテ妙理ノ道トシテ永シク不朽世矣

三十四年
九月稿

美ト愛
百花散ノ如ク碧落遊ニ似タリ董鳥啼轉ニテ江流紅ナリ
以テ人目ヲ奪ハニハ可ク以テ耳ヲ決ナラニ奇天高ク
氣清ニ刻露清霜寒月一痕以テ高潔ノ氣ヲ養フ可ク以テ
若坐ノ氣ヲ養フ可ク天ニ五彩ヲ釣トリ星華爛々地章麗
ムルニテ山峰峨々タリ白雪旭暎ハ映ニ江河錦帶ノ如
ク細鱗江ノ海ニ巨矣利ニ躍ル盤營空ニ舞ヒ曼御海ニ寄
テ嗚呼大ナル哉自然與天ニ無教ノ星辰ヲ七ニ地ハ江
河ノ行リガハニ委ニ海濱ニ鱗鮫ノ躍ルハハカス森羅
ノ蕩象ニ更轉止ム無ク或一電光閃々トシテ空ヲ燄々
西沛然トシテ降り虹霓ハ乾轉ヲ畫キテ珠玉ノ錦ヲ裁リ
風塵ニテ好華肉々紅衣ニテ綠草濃カシ金凡一吹紅衣ヲ

井にて雪へ鑑み或は黄鳥若くは杜鵑啼き思恋慕也
テ舞ハ舞耶トニテ移動ス松凡琴ヲ鼓シ海寿琴ヲ彈ス疑
皆自然妙ノ美ニシテ哲人ノ學ニハ所理學者ノ喜ブ所文
聖ヲ弄スルハ徒ハ材料ヲ以テ無尽ノ藏ニ取リ以テ自以
美ヲ誇ル以テ天帝ノ妙工ヲ觀ス古ノ人習ハカク惟江上
之清風與山向之明月耳得之而爲聲目遇之而成色取之無
禁用之不竭是造物者之無尽藏也一頁十八哉其辭ノ奇ナ
リカハユルヤ愛々其本深探具遠博クニシテ仁トナリ道
義トナル愛々美ト一或一生トナリ或一貧トナリ而相伴
ヒテ居ル可ヤイガハ層層輔車ニ似タリ神ノ安一然際シ
ニテ極ユリ且リ之ガ反射一人向ハ於テ極ナリ或一人情
織美トナリ或ハ外物ヲ用研トナル以テ人類ノ終合ヲ爲ス

以テ社會ノ基礎ヲ依リ遠ク思テ故テ経古幾千年ノ
昔エカシク仙霞蕙蘭室ニ麗華柳々彼ノ智識ノ樹實累累
トシテ珠玉ヲ綴ルハ人類始メテ愛ハ年ヲ度ケ研ト
居テ同リ相推相誦往時ヲ考フハ香ハシクニ遊ヒ舞ヲ唯
眞個ノ桃源洞トシテ空想スルハハルハ然ハ紅丹青ノ
筆ハ一展シヨリテ人類進歩ノ有様ヲ攻竅スルハ初メテ
生ヲ以テ身ハ愛テリテ人類一智能ハ於テ動物ヲ去ル
テ遠カク其高キ處始メト本欲ハ保ハルモノ多ク意志
ノ發達盛リ高キ及ビ彼ノ天真爛漫ノ美ヲ得テ遂ニ道
義的犯罪ノ人ト爲ルニ至リ即チ知ハ太古エテ園裏
ノ人唯神ノ意志ナリニ彼ノ本能ハ之ニ從ヒ心ハ情慾ナ
リ恐嗟無ク利ナリ不利無ク欺誑無クニテ代ハルノ竟

舞、氏タリニナリ鳴呼當時ノ世ニ毎ト美ト、世與ニ
テ一墜汚穢ノ穢塵無ク神ト人ト相親ニテ相推ニテ証リ
ニノ時ナリ下テ人類皆志奈原ニテ人又進ニ自然ノ靈聖
人エテ如ニテ格ルシ及日テ又古ニ長テ人類ノ欲望其成
先ノ靈ニルテ格ルシ及日テ又古ニ長テ人類ノ欲望其成
ヲ屋ハシ生者ノ造テト食リ返内強食ノ染ニル人類
復其支漸リ薄リ夫莫ノ美鳥ヲ止メ思ハ昔ニル人
策ノ詩ヲ作リテ人類ノ交際ヲ導ク鐘ノ歌ヲ以テ人生ヲ
詩ノ直ヤニ武聖々其根源遠リ萬物自聯測知ノ基礎ヲ依
ル夫婦ノ愛ニナリ親ノ愛トナリ兄弟姉妹ノ愛トナル希
望ニ各生計ノ方向ヲ示シ愛ニ宿願ニテ止マナリ太古
エテ今ノ愛ト美トニ以テ向ニ存ニ達ク博愛ヲ以テ不朽ノ世

八子稿

有神無神ヲ論マ

哲學者ノ中ニハニ派ヲテ一ツハ有神論者テ他ハ無神
論者ヲアル其説ヲ所リ聞クニ第一者ノ云フニ宇宙
ノ萬物實ニ森羅萬象ナレ其皆考テ齊タトニテ一定ノ規
律ニ從ヒ大ニ天作ヨリ小ハ頭微鏡的互由ノモノ迄モ悉
ク一定ノ道理ニ從ヒ考リ相聯繫ニテ居ル是ハ即チ同一
ノ意ヲ成リ成ルニ證據ニテ同ニ神ノ御手ニ創爲セウ
ニタカラテアルト他ハ即チ自然論者テ宇宙間ノ森羅萬
象、皆考テ元祖ヲ同ウニタテテ宇宙ノ空間ヲ滿タセ
ルニ瓦蛇作ノ活動ニ因リテ騰リテ天トナリ以テ日月
星辰ヲ造リ降リテ地獄トナリテ即チ吾人ノ見ルカ如
ク今日ノ山川草木ヲ形テ作ラテアルカハ故ニ萬

物ノ同ニハ一定共有ノ自然ノ法則ト云フモノガアツテ
最重シ支那セテトモノテアルト云フ是(カ)丁度生物ノ
自然發生ト生物進化説ノ様ナモノテ各(カ)立脚ノ地ヲ異
ニシ其視ハ所ノ眼鑿ハ遠クノテ能ク之ヲ透視スルト云
フト一ハ其想ヲシテ他ハ其裏面ヲ見タノ其(カ)過ヤナ
イ畢竟ニ説ク總合ニテ能ク其内外ヲ見ハ解カルテ
ナル即チ神ト云ヒ自然ト云フ其名稱ハ異ナルケレモ其
実ハ大テハ大變フリ遠クハ十人ノテ宇宙萬物ハ皆凡ソ
宇宙ノ法則ヲ確固執ヤス可カラザル千古不易ノ規律
ニ支那サレテモノテアハガ此自然ノ同(カ)働イテ居
ルカハ如何ナルモノナリヤト云フ(カ)遂シ(カ)理學家(カ)俄カ
一答辨シ答ニム所ノ問題ハ極看スル(カ)テ此表面極限

ヲ捕一テ葉者ハ神ナル名稱ヲ得ンタノテアルサレバ神
ナハ意義ハ自然力ノ支那者即チ自然力ノ由テ来リ来シ
ハ極堅トモナル可キ源泉シ余名(カ)女ノテアルカヲ神ト
自然トハ偽故ハソリ遠クモノテハナイ有カナル彼ノ獨
乙ノ詩人(カ)去るまじハ神ナル表態ノ下(カ)斯リ云ハ(カ)カ
神ト云フモノト自然トハソカ内蕩完全ナル(カ)藝シ(カ)若シテ
ハ西方(カ)聖(カ)美等ノ無クモノテ同(カ)度依傍上シ在ルモノ
テアル之ヲ例フ(カ)バ丁度太陽ノ白也ナル(カ)光(カ)爲(カ)東(カ)ハ
リ(カ)由(カ)子(カ)出(カ)過(カ)ヒテ也アル七色ノモノシ(カ)分(カ)解(カ)サ(カ)レ
ハ(カ)神(カ)キ(カ)モ(カ)テ(カ)彼(カ)ヲ(カ)呼(カ)ビ(カ)テ(カ)神(カ)ト(カ)シ(カ)此(カ)ヲ(カ)特(カ)ク(カ)自(カ)然(カ)ト(カ)云(カ)フ
ノテ若シ神ノ意(カ)去(カ)リ(カ)テ(カ)一度(カ)此(カ)神(カ)ト(カ)自(カ)然(カ)ト(カ)陳(カ)列(カ)ス
ナス所(カ)一(カ)種(カ)不(カ)可(カ)思(カ)議(カ)ノ(カ)力(カ)ナル(カ)ガ(カ)リ(カ)也(カ)未(カ)知(カ)子(カ)シ(カ)該(カ)者(カ)ト

ハエノカ破壞サレタ時ハ自照ノ神トハ全ク時代ニテ
即ケ吾人ノ眼之ヲ見耳之ヲ聞キ乾葉ノ坤週リニ發揚シテ
昔ヨリ吾人ノ親シシ自照ノ界ナルモノハ存続シテ
モリイカ創生ニ百千ノ河水ガ考リ大海ニ融シテ蘇水也
リテソタ舊し片宙間ノ萬象ガ凡テ一ニ帰スルヲテアル
ト歎ヤリシ述フテアル神ナル親合自照ナル念想ハ人類
アリテ初メテ中身ヲ物ヲヤリ人無テハ神無キカハ云
フシ味シテ夫様テハナイ神ハ他野無限ニシテ塵ク乾坤
ノ間ニ擴カリテ自照ノ旨則テ支限ニ或ハ雷霆ノナリ或
ハ日月星辰トナリテ以テ宇宙ノ空間ヲ充タスモノテ或
テ人類ノ存否如何ニヨリテ中現消滅スルモノテ無ク志
留利亞ノ猶其昔人類未タ地思ノ一蠢蠢如トシテ中現ス

ハ猶其以前乾坤未ダ成ラズニテ宇宙ハ猶若ク一ノ混沌
タル一塊トシテ存在スル當時既ニ業シ萬能ヲ以テ支限
サレテ居フモノテアルサレバ往昔ヨリ有神無神ノ何
ナハカノ疑問ニ致テ人間ノ好奇ヲトシテ知ラント欲
スル所ノ者ア是レリ純クナ宗教ノ本原トナリ滋鵬トナ
リ印度哲學或ハ神學トシテ種々ノ方面ヨリ研究サレタ
ノテアル而シテ一神教トナリ或ハ多神教トナリテ隨
凡人類ガ往昔宗教ノ生レテ以來至ルニ以テ僅ケテ信仰
ニタ時代ニアフモノテアルカ然レシ種々ノ自照ノ法則ガ
發見サレ人文ノ進ハシ從テ神ノ存在シ注ぎヤラハ
獨ニナリ神ノ漸ク際遠ノモノナリ行キ人間ノ思想ハ
莫萬能ナル神ノ意志ニ込ブリテアル現時ノ理學與花

三

曰、他ノ諸科學ハ長テ發見セラルタル相互ノ法則ヲ難
識シテ半ノ一毛大海ノ一水滴様モノデアル中ノ未ダ未
知人類ノ理想ト能力ト萬能ナル神ノ區域ハ至ルカ遠
イノデアアル也人ノ類存在ノ理ト人文進歩ノエビリ見
心中ノ地備向リ以テ刻々進シテアルノデアアル也
リノ如ク現時ハ長テハ日月ノ人類相獲ヘテ社會ノ進
歩ヲ促ガシ萬能ノ區域ハ進シ真理ノ意ハ在セトニテ
致メ崇メ勉メテアルノ如ケル也今ハ精進ク其カ賜
ヲ見メ許リカキリ前途精進ノヲアルカキリ有カ
理學家ノ大斗タリシヲウセシカキリ非常ノ信仰者ヲ
メソリカキリ吾人モ限ラ放テテ遠ク宇宙ノ大ヲ觀シ思
ハラ深ク至敬至細ノ物作リ想ヒカキリバドウニテモ
自然ト

神ナル觀念ヲ理想ノ中ニ刻セバナラハ様ニナル人間
即チ現時ノ人類ナルモノハ短カシ長テモ解カシ共テモ
非常ノ制限セリ中萬能ノ萬能一モ達セナイ位デア
ルカキリ此不完全ナル弊アリニテ如何ナル博識ノ人モ
聰明ノ人モ難モ神ナル疑問ヲ解釋スルニ苦シシ徒テ人
類ノ能力ノ微弱ナル弊ヲ觀シ來シハ自ラ宇宙ヲ文解ス
ル至大至盛ノ力ヲ理想中ニ研ヒテ印像スルノ價キカ
ルカキリ人ノ類カ神ヲ信スルニ其性向テ宗教心ノ人類
自然ナルモノト云ハズバナラズ今其例蓋テ史第ノ上ニ
見ルニ抑モ宗教ノ本源ハ埃及印度ノ昔ニ在リ流レテ
也埃及宗教ノ流レテ汲ニテテ不アルニ在リ或ハ一神教ト云
教ノ本源蓋テ一カキリテアルカキリ或ハ一神教ト云

四

水、如く吾人の僅か、其一滴、汲て得たる、此夫
斯、如く自燃の大理、紛糾ニテ、深淵其本體、杳然
ニテ、窺て難し、人生僅か、五十天地、悠々十八、比スレ
ハ朝、生レテ、夕ニ死スル、鴛鴦、如ケン、此短日月
ニ處シテ、冥海、中ニ航路ヲ定メ、スルニハ、吾人の精
神、恃テ、慮アラシム、ユレテ安定ノ位置ニ置カハルハ、力
ヲ、吾ガ前路、蒙ク暗トシテ、鑿ス、マカラズ、觀ル可キ、
精神、確乎トシテ、迷ヒ無ク、容易ニ、外辱ノ刺、教ニヨリテ、動
搖セラレ、ガハルニ至リ、初メテ、人生ノ幸福ト安泰トヲ希フ
可シ、精神、確固ト平好ト一信仰、精神ニ及アモ、無シ
見、刀ヤ、耶穌、リ、キ、スト、カ、天ヲ仰テ、一笑ニテ、十字架ニ登リ、
罵ノ、暴君、名、トシ、虚、耶穌、徒、弟、ノ、信仰ヲ、棄スル、能ハ、カリ、コト

十月稿

精神修養

物ニハ、凡テ自主ト、ナルモノ、有テ、萬物、皆之ヲ得、
ニテ、努力ニ、依リ、ルモノ、言ヒ、換フ、ハ、静止安定ノ地位ヲ
得、
シ、
ニ、
、
モ、
層、
雄、
マ、
、
一、

神ノ修養ハ煩ラリ身体ノ壯健ヲ基トス可キナリ是ハ身
体ノ壯健ニ或テ度迄精神ノ健全シ伴フモノナリ
次テ學問トシテ精神ノ修養ハ實ニ可キモノ一精神ノ分
子ヲ能ク結合關聯セシムルモノ良ク之ヲシテ複雑放恣
ナラシムルモノ一害アリテ益ナク何學問ニテモ深ク其
深奥ヲ探リレバ大ニ精神ヲ修養ヲ補助シ得ルモノナリ
然レモ他ノ最モ強固ナル精神ヲ養ハシムルニ
或ハ又理學數字ノ如ク綿密ナル思想ヲ要スルモノ
思想ヲ正確ニシテ事ニ惑ヒ少ナリ餘程修養ノ要ハ此
右カナルモノナリ或ハ亦勝ヲ毎ハト云フ一ハ精神ノ
修養ノ補助スル處多カル可ク免レ一ハ精神ノ修養ノ要
一ハ心ヲ安靜ノ位置ニ置キ正體ナル分至利正キ腦ヲ作ルナリ

二月十六日
稿

學問ノ關聯

人文發達ニ言語漸ク複雑ヲ加ヘ思想モ亦從テ高尚ナル
ニ及ビテ言語ノ不備ヲ補充スル爲メシ養ハ文字ノ發明
トナリ其初メマ所謂彼ノ象形ノ文字ニシテ何レノ四ノ
於テ用イル國字モ洋ノ東西ヲ問ハズ其文字ノ根源ハ凡
テ物象ノ像トリ或ハ樹枝等ヲ用イテ音節ヲ表シタル
コリ奈達迄化シ今日ノ複雑ヲ致シタルモノニシテ實ハ
學術進歩ノ一大基礎ヲナシケリ既ニ文字アリ而シテ人
文ノ發達ト共ニ思想漸ク複雑ヲ加ヘ人類自然ノ好奇研
心ト事物ノ根本ヲ探ラシムルニ裨助スルニ益ナリ
森羅ノ萬象ニ系統ヲ立テ之ヲ區分シテ益々其蘊奥ヲ明
瞭ニ根柢ニ到達シ遂ニ善ク宇宙ノ神妙ヲ關キ自然ノ法

則ヲ知悉スルニ至リ是ニ偏、學問研究、恩澤ニシテ
一面ニ一箇人ノ道徳ヲ高カラシメ、社会ノ進歩ヲ致シ他
方面ニ於テハ吾人ヨシテ物質的ノ利益ヲ享有セシム一
言以テ之ヲ蔽ハシ、學問ノ目的タル人類ノ此世ニ生存シ
得ル上ニ於テ至高至大内萬唯樂、利澤ヲ享受シ由テ以
テ彼ノ真理ニ合一ニ益向上、域ニ達セシムトスルニ
外ヲラズ夫ノ斯クノ如ク學ノ博々萬般ノ事物ノ多ク現
象ノ夥多ナル宇宙ノ廣キカ如ク之ヲ總令スルニ一學問
ヲ以テナシ能ハサルカ故ニ勢ニ多様ノ學問ニ分岐セカ
ルヲ得ズ然リ而シテ學術ノ進歩愈々盛ナルニ應ニテ更
ニ分派ニ分派リ生シ其俾ムル所ヲ知ラズ是ニ皆ニ各種
ノ業務ガ分業ニヨリテ興カセラルト一般ニシテ自然

ノ理ナリ惟、往昔希臘ノ哲學ナルモノニ見ルニ今日學
術ノ基礎ヲ作シル一実ニありとシテ其ノ人ニシテ儒
時此學術ノ中ニ總令セラルトモ、現時ノ學術ノ教種
ニシテ神學、哲學、理學、醫學等ニシテ其内容頗ル饒多ナル
モノナリキ夫ノ斯クノ如ク希臘時代ノ哲學ナルモノ一
合蓄大ナル學問ナリシモ學術漸ク進歩シ社会失智ノ矣
達ニ伴ハ万般ノ事物ヲ一學問ノ下ニ抱括スルヲ能ハカ
ルニ至リ分岐シテ批謂專門學ナル者名ノ下ニ討究セラ
ルニ至リ之ニ切切ニ太陽ノ白也支線ハ人爲ノ
精巧ナル三稜鏡ニ遇フテ輝爛タル七色ニ分ルカ如ク
而シテ學問ノ莫妙ヲ明察シ自然ノ理ヲ發見スルハ、辨然
成照タル學問ノ其ノ一ヲ捉ヘ之ヲ專攻ニシテ後、高ニ得

マキノニサレバ現今學ヲ營ムルモノ一何ノノ學問トモ
コ之ヲ專攻ニテ其眞價値ヲ取得スルヲ學問ノ方針トモ
トニテ之ニ傾ケリルニ學問者ノ最モ注意スルモノキ一基礎
ノ欠缺ト學問ノ關聯ヲ無視等閑ノ附スルニアリ學問
關聯ヲ友仲スルニ職トニテ普通學志想ノ欠在ニ歸スル
ニ一雖モ事同象ノ慣例トニテ却テ之ヲ忽諾ハ陪ハ所謂
華管頭天定蕪狽夫不見山ノ類ニテ其學問タルハ藪煤
無味ナルモノトナリ終ラニ大發明大發見一皆此等
學問ノ關聯ニ於ケル與服ノ産物也ラハタルモ多ク學
問ノ色教趣味モ尙關ノ關ハ一山高キト水長キカ如
ク托糜キ鳥致フノ關無限ノ精神ノ清伏スルニ似タリ學
者ノ周圍ノ關聯ヲ忘却スルニ轉タ欺學者高ニ悲ムキ一

三五年八月稿

讀書卷

元來學問ノ目的ハ一丁度植物ノ水ヲ灌キ肥料ヲ與ヘテ
之完全ナル植物トナシテ三ツ果實ヲ結バシニ種トモ
テ人間腦裡ノ萌芽ヲ學問ニテ開榮カヌルニ以テ理想
ニ合スル聰明博識活動的性質ナル人ヲ作ルノテアル故
ニ學問ヲスルニ最モ肝要ナル一此萌芽ノ開榮ハアルノ
下凡ソ學問ノ高而シテ理性ト道理ハ明カニ又ニ下リ
テ漸次人類ノ迷途ヲ解キ真理ニ合スルニ其要旨本件
ヤカテ主觀的ニ之ヲ見ルニ人類ノ位ヲ進メ相境一テ社
會ヲニテ次第ノ神武ニ達セシメ真理ヲ知ルニアルニテ
愛親的ノ見ノハ人文ノ氣運人類ノ利益ヲ一層大ニ進
一得ニ獲ルニスルニテアル而シテ學問ヲ爲ハシハ先ツ

出来ナリテ死學ヲヤテハモノカ多イカウ我國ノ學問上
ノ進歩一薄イノテ人故ノ人ノ精練ヲナメテ甘トムル
類ハ非ムルコト現時學者ノ多数シアルカハ故シ我國
人ノ頭腦中一學者トサヘキニ欲セ無ク利益無ク唯
著書引或ハ偽善的ノ觀念ヲ懷キ以テ社會ノ辛勞者トシ
テ人類眼前ノ權ハハ披露シ用キテ天啟者ノ如ク真理
ナハ拒大ヲ輝カシテ人類ヲ漸次神域ニ導キ社會人類ノ
公平ナル定學者テアラテ我爲政治家ノ國家國民ノ福利ヲ增
進スルニリモ教壇力アルモノナルヲ知ラナイ者知ラ
ナイトハ無イノテアルケル此現象ハ長ク猶見ナイノテ
見ユトハ信シルナリテ格言シ意通スル爲メナリ
ナインテアル之ハ誠ニ我國ノ爲メハ慨ム可ク悲シク

ベキコトヲ大ニ改革セバナラヌトハ思フ殊ニ科學既
中博物ノ學ノ如キハ尤モ現時的ノモノテ學問ヲハ出来
ナイ書籍ノ米ヲ與テコロシ其精確ナルヲ教スルハ須
テリ自然界ノ米ヲ問ハズバナラヌ自然界ノ學ニ該博無
長識ノ教師ヲ以テ方ノ力次第ニ問ハルニテ親切ニ答ヒ庸
テ一壁ノ熱リガ無イ具又愉快ア摩人多キ教室ヲ扶臨ナ
ル善齋ハ余々異テ居ル自以明ニ學ブト云フコトハ科學
ヲ攻取ルモノモ、教員法道ヲ學ス可キコトアル書籍ハ
不クモノ一中之他對的ノ利益ノ本ニモノヲナク隨
分該博ニ多ク而異說併存ノ流弊モ多イ故シ此ヲ第一
或書籍ヲ讀ムコト判断力ト辨明力カ無クハナラナイ
又幾分ノ批評的能カハ無クハナラナイ
五

萬卷ノ書ハ膠不^カ離^カモ完全ニシテ徒庸ナル^ル學内ト
ナリナ^リテ唯ノ聞談^カテ何ニモナ^ラナイ^テ孟子一教一
テ^レ曰^クク^ル盡信者則不如無書ト^云ハ^ク今古ノ至言アリ
或名士ガ有^リテ^レ書籍ト云^フモノハ白^ク中^ニ要^ト認^ル大^ニ且^ニ知
リ^テト^モ馬^ノタ^リヲ見^ルハ夫^レテ^レカ^クテ^レ敬^テ微^ク徹^ク尼^ク謙^クウ^ノ
中^ニ要^トアル^トナ^リト^モ是^レ又^ニ察^ルタル^ノ説^ト男^ノ女^ノ上^ニ等^ト並^ニ卷^ノ
書^ノ片^バン^カリ^一枚^ニ成^ル兼^ニカ^ク曰^クニ^一人^ノ七^生ヲ倍^スト
至^ルモ不^レ可能^ナト^モテ^レ又^ニ至^ルノ^ノ至^リテ^レアル^ノ學内^ノ目的^一
理性^ヲ高^ク々^ニ眞^ニ理^シト^モ左^ニテ^レ現^在ノ^ノ表^識セ^ルハ^ハア^ルハ
多^クノ^ノ書^籍ヲ^レ誅^クハ^クヨ^リモ^レ可^ク成^ル之^ヲ現^在セ^ルハ^ハ其^ノ至^限
ト^モ可^ク又^ニテ^レ學内^ノ種^種ノ^ノ利益^モ又^ニ此^ノ存^トル^ノテ^レアル^ノ
畢竟^ニ謙^ニ書^ノ學内^ノ本^作ハ^ハ非^ニハ^クニ^テテ^レ萌芽^ヲ發^スル^ノニ^テテ^レ方便

ハ^ハ一^ノ過^カヤ^ナイ^テ改^メ書^籍ハ^ハ長^クテ^レ學^ニタ^ルハ^ハリ^モ地^ノ
長^クテ^レ學^ノタ^ルハ^ハ廣^ク義^ノ學内^ノ或^ハ學^ノ長^クテ^レ一^ノ枚^ニ等^ト時^ヲテ^レ居
ハ^ハ且^ク精^細テ^レアル^ノ書^籍ハ^ハ長^クテ^レノ^ノ學^ニタ^ルハ^ハモ^ノ一^ノ至^テ
薄^弱テ^レ精^確ヲ^レ缺^クテ^レ居^ルハ^ハ此^ノ現^在ノ^ノ文^憑ノ^ノ進^歩ト^モ科學^ノ
發^達ト^モ伴^テテ^レ種^種ノ^ノ發^見發明^モ多^クシ^テ中^ニ一^ノ種^種シ^テ成^ル
テ^レ兼^ニカ^クテ^レ一^ノ之^ノ廣^ク義^ノ學内^ノ重^大ノ^ノ上^ニ其^ノ正^否ヲ^レ攻^クテ^レ
察^ステ^レ一^ノ人^ノ生^ノ短^クト^モ年^限ハ^ハテ^レ一^ノ到底^ノ不^レ可^ク成^ルノ^ノテ^レア
ハ^ハカ^クハ^ハカ^ク故^ニ人^ノ積^平テ^レ南^極ヲ^レ取^ルト^モ云^フテ^レ一^ノ中^ニ要^トカ
テ^レフ^テ兼^ニハ^ハ即^チ或^ハ分^ノ眞^理ニ^テテ^レ十^ノ目^ヲ視^ル所^ノ十^ノ指
ノ^ノ指^ル以^テ是^レト^モタ^ルハ^ハ一^ノ自^ラカ^クテ^レ本^ノ之^ヲ是^レト^モテ^レ
他^ノ亦^テ發^スル^ノ一^ノ類^ハモ^ノ一^ノ就^テ時^ヲ利^用セ^ルハ^ハナ^ラナ^ク
此^ノ一^ノ人^ノ學^者一^ノ皆^ニ無^ク為^ルト^モテ^レ供^ハス^ルハ^ハナ^ラナ^ク又^ニ此^ノ由

幸得の限りの先輩の正鵠を得たハカ否ヤノ是非ヲ正スル
 勝ハ一ニ無ク學問ヲ為ルモノハ人間ノ高飛ヲナシ以上
 身悶の故寂ムトシテ非常ノ中尋ノテテハハカ或
 學者ノニテカ死クヤヲ觀シハ一ナリ學ノ之ハノシ勝
 向ケテ穿鑿セドト云フ加キハ餘リ極端ノ論ハ思フ何
 故ナレバ學問ノ利益極味ノ學問ノ則研テ之ハヨリテ種
 ムノ収見發明ノ書未以國聯シヨリテ大原理モ基礎ヲ堅
 リスルノテ唯一方ノ偏ハル時ニ蘇ッ進ノ所ノ毎夫山ヲ
 見ズ或ハ華信天シ類ニ類ニテ陰分陰ヲハ結果ヲ未
 タスノテヤル業ヲ吾人カ春日山行スハ唯天ニ仰ギ
 テ外物ヲ見ガハ片一何ノ極味ス無ク奈見ハ唯天ニ仰ギ
 見ツ全豹ヲヤスル如キ大熱意ヲ生ゴフニテ三觀セヨ
 (Alle Welt ist mein Freund)

明治三十一年四月

凡テノ世史ハ
吾友ナリ

人類ノ集團的性傾向
 往古幾千年ノ古人類猶禽獸ヲ去ルコト遠カラガリニ
 野原ノ時代ハイガ知ラズ苟リモ人智多少發達ニテ歴
 史的人類トナルニ至リテハ人類ノ集團的性傾向ト其利益
 ニヨリテ社会的結合ヲ作ルニ至リ此等一取一取ハ
 史策ノ證スル所ニテ往古埃及ノ建國ノ如キ支那印度
 凡ソ三千年ノ古一國家社会テリ現象ヲ瘡ニタル皆是
 一ノ人類ノ本性ニ基ク所ノモノニテ如何ナル童叟
 争鬪ノ種族ト雖モ決ニテ箇々單獨シ生活スルモノ無ク
 少ナリトモ男女相共住ニ或ハ一家族ヲ構テ作ルヲ勉ル

サレバ原人の世にアリテモ犬猫ノ如ク箇々ニ散布セリ
一タルモノニ非ズニテ中々集團的ナリニ相違無ク
猛鷲カ深山ニ棲シテ生活スルカ如クナルニテ
蓋産ノ群生のタルカ如キハカハカ故ニ最初一單獨ナ
リシモノニモセロユノ傾向漸次奪取ニ一ニ生存ノ競争
ラフ外與ノ刺激ニヨリ今日ノ社會集團ヲ致シタルモノ
ニシテ其間ニ幾多ノ腥風暗曉タル勝里ノ歴史ヲ考リ
及ニ夫風聲ノ今日ノ社會ヲ是レ出シタルナリサレバ
現時ノ社會ハ失シテ生存競争ニシヨルハ給ハラス
ニテ遠リ其淵源ヲ溯ハバ實ニ吾人本来ノ性傾キ其ノモ
ノニテ共同生活ノ遺傳或ハ慣習的ト謂ハレヨリモ寧ロ
吾人ノ本能ト稱スルニ却テ至當ノリナリトス

既ニ社會ヲ組織シ有無相通ナルニ至レバ中々ヤ緩ニ秩
序ノ根本トナリ行爲ノ標準トナル可カラズニ社會道
義ノ由テ起ル所ニシテ吾人行動ノ範圍ヲ制限シ且テ社
會的人類トシテ負フ處ノ義務ヲ明瞭ニシ生存ノ實ヲ全
クシテ而シテ吾人天賦ノ天性ヲ高メ社會ヲシテ益々絶美
ノ域ニ達セシムルニ皆ユノ力ニヨルモノニテ人生最大
ノ至樂亦是開ニ見出サレニ
二人類ノ同情的性向
夫ニ吾人が日帯善ヲシテ心ニ快美ヲ感シ重ク行ハテ
不快ヲ覺ユルハ普通常識ヲ有スルモノニテ経験ニ
ル所ナリ之ニ人類ガ数千歳ノ歴史ヲ経道義軌ヲ明カナ
ル今日ノ思想ヲリ溯テ往古原人ノ古思ヲ想像セシニ善

匪ノ標榜スル所ノモノ無ク行爲ノ一定ノ制限無ク意ノ
向ノ處思ノ行ク所是ノ其生涯ノ全體ニテ所謂愈益増
雄鷹睥睨終等ノ肉慾ノ制御ノ下ニ行動シ畢ク之ヲ得
カ高メテ營々タル今日亞非利加諸洲見ル黒奴不ツ
人セフコノ種類ヨリモ或ハ猶一層甚シカリニヤモ知ル
ハカラズ然レモ男女相愛シ親子相親シムハ如何レ野蠻
蒙邊ノ人類ニ雖モ決シテ難クラズ布モ之ノ動物一般
通有性ト云テ又類ハ他動物ヨリモ身伴精シク於テ一頭
地ヲ按キテ卓絶セルモノナルハ於テオモモ猶圍ノ亞
非利加内地ノ黒奴一少強ク全ク以テ其子ヲ壺リ拵
之ノ猶他ノ愛情ヲ庶ク可キ存固勸殺ヲ求ルベキ問題
ニテ非洲ノ諸國今現ニ東亞ノ人身ノ壺買ヲ見ルハ非ズ

稿

女性の側面觀

一男女兩性の比較
泰西の怪言に曰く堅き石と堅き石とは其間に柔めある
粘土のあるありて悠久に維持せらるる也思ふに男女の兩
性は其向ふ所各異なり男性は雄は弱之を占より陽
性陰性排斥せり即ち一はエニチーゲに一はネカチ
一はガレト男は常に進んで取りむとせ思ふ一は女は退く守らむ
とせ勤心夫れ斯くの如く兩性其趣く所を互に其性状
を同トクセ也也雖も是れ能く其趣を調和せる所以に
て談の妄ふらざるを見るに足る併人ニシテ一は「婦
人ある氏の著書に論じて謂く男女は同一の俾草場ニ趣
ム所爲めに異ありたる直在る進行せる旅人なり也男女

は其性を異にせしむ之れ却て調和の要素にして神童の
周到なる所あり男女両性の單複を比較見ると其畢
位を異にして或は得失ある所如くふれざる概して女性を
簡潔にして或は薄あり彼は情の外に生活し此は情の範圍
を脱する能はざる感情の中を思考力も相付はざる如
く女性は一一般に深く慮するの力に乏し男は概して感
情の意に制約せらるる如く猶其以外に活動を求む之
の男性も其奥の至務に耽溺し表面に活動し以て優先の
位置に居る所以にあらんや
二女性の側面
女性の理想は愛情あり之れ女性あるもの中樞なりと
且つや其生命あり嗜て「アービニング」ガロークンバーと云

る一節に論じて謂う男は「インテレス」及「アムビション」
の動物ありお故に常に其奥の競争場裏に馳駆し其奥
ある一大眼界の下に運命を牽引せしむる如く彼の愛
情の念の如きは青春血潮湧く時代に於ける裝飾あり或は
痲痺の間に萎せしむる如く其如きの外に及して女
性の生涯は愛情の歴史あり心は其奥ありあるが故にあ
らゆる女性の希望は此に求められ堪伏せる室此に
に捜索せらるる而も斯くの如く子として同情を奏し凡
この精神を愛情の犠牲に供せしむる是は美に女性の
性質を影寫して餘ありと云ふ一夫一斯くの如く女性の
の榮譽は愛情の内い各輝せられ男性の譽は其奥の劇場
裏に求めらるる即ち一は微にして優一は女にして莊なり

心執心ヲ以テ放棄セラル可シ一眞理ハ一帯ノ思考ハ他
半ニ垂納若ク有ニル程先除ナルヲ一確ナルアルヲ一
一第一義一全般シ後リテ省クニ先先フ忍ビ得ル可シ
唯道徳ノ心ヲ鼓舞興盛ニシテ其心傳散シテ令夫ナ
一精神トシテ是誌ニルヲ牛馬トスルシテアリ何人カ彼ノ
カケラノ強意トスルツウ出アウれる處ノ高徳及ビ云々
くこつてトセわのレ自若タル氣象シ營カハモノアラコ
照リト雖モ是レ理會ノ良美ナル意送シ過ギス而シテ其
一是レ人間ノ唯一部ヲ轄リ盡心シ取動シテ事ヲ理想史
中ノ英雄ノ中ニ高類メ同類ノ事ヲ人ヲ力ノ以テ釋
二ノ能ハガハ極端ノ事ナリ箇ノ人類ノ進代ノ萬物變轉ヲ
歴史的ノ如ク所及ニ哲學的ノ教明ニハ承テ至キ語可シ

三十五年八月

辨

片断同シ在リテ凡テ内滿完全ナリト稱スルモノハ皆辨
一一致ニル辨ト自然ト一其ガ内滿ナル驛ハ其テ一兩方
著シクニ大物デヤハ辨妙不可思議ナル物也中ニ總合シ
テ存在スルモノハ辨ノ調和的運動ノ全集合物ト云フノハ
自然ヲアル所ニテ無數ノ度ト量ト階級ハ分解ニタル物
質ノ映像トテス自然(一)此種象的ノ陣述ヲ許サレヨ
此自然ト云フノ一即チ無限ハ分解サレタル神ナルヲ云
下度太陽ノ白也ノ光線ガ不リ成マ硝子ノ為メニ七色ニ
分タレ、カ精ハ美妙不可思議ナル辨ノ如キ予ハ多數ノ
感覺ノ有ルハ物也分タレ、カ精ハ可教シ七色ノ光線ガ
唯一ノ辨ノ光線ノ束ニ還元スルヲ凡テ此等物也ノ結合

カラ神靈ヤル者、創出セリ。ムセリ自然界ノ存在スル
 後ノ形態一也。諸子テ皆精神ノ運動。彼ノ群一神靈ト
 ハ、交信ノ色彩ト、テス其故。ムフカ此靈能、ムセリ
 由テ破壊スルト云フ。トカ有ツタナ。ムセ能ノ神ト並
 ノ、提吊ヲ破レテ、アラユル宇宙ノ精神、一ツノ無限ナルモ
 ノ、此流ニ凡テ、調和ノ合一。ムセ能ノ神ト並
 一大海洋ノ巻リ注流シテ、各水無キ。ムセ能ノ神ト並
 物質間ニ流リカ、自然界ノ形態ヲ創造シタ。ムセ能ノ神ト並
 多精ノ形態ヲ造リテ、成常無キ宇宙精神ノ力カ一途
 一彼ノ分辯ノ楯止極限。連スル。ムセ能ノ神ト並
 奈言ムルヲ得シカ、即チ神ヲ創出スル。ムセ能ノ神ト並
 一信司カ、後テス。

カハカ故ノ、音ラシ。アハル。ナル。変。テ。キ。カ。辨。ノ。如。キ。モ。ノ
 一。連。セ。ル。為。メ。ノ。撃。テ。至。ル。所。ノ。階。段。テ。疑。ハ。モ。無。ク。テ。キ。カ。ノ
 無。識。ノ。肉。ノ。彼。處。ノ。目。指。シ。テ。進。ム。行。リ。テ。ス。

- „Tote Gruppen sind wir, Wenn wir hassen,
- „Gitter, Wenn wir lebend uns umfassen,
- „Lechzen nach dem süßen Fesselzwang.
- „Aufwärts, Durch die tausendfachen Stufen
- „Zahlenloser Geister, die nicht schufen,
- „Waltet göttlich dieser Drang.
- „Arm in Arme, höher stets und höher,
- „Vom Barbaren bis zum griech'schen Seher,
- „Der sich am den letzten Seraph reht,

„Wollen wir einmütigen Ringeltanzes,
 „Bis sich Sirt im Meer des ewigen Glanzes
 „Sterbens untertauchen Massums Zeit.
 „Freundlos war der grosse Weltmeister,
 „Fühlte Mangel, darum schuft er Geister,
 „Seltge Spiegel seiner Seligkeit.
 „Fand das höchste Wesen schon kein Gleiches,
 „Aus dem Kelch des ganzen Wesenreiches
 „Schäufte ihm die Innendlichkeit.“
 愛する予からのあはれ、永劫無常變遷の屋敷、破壊的
 榮大日りに永代不朽の執道を放つたか為る貴い金、爵
 位利奪り帝王の輝かりの五座より性徳の増殖的アルカニリ

何故、婚姻ヒガル
可カラサルカ、

何人モ現時ノ世段、生ハ出テタル人ハ此重要ナル事柄
 事情ノ甚ニヤ結合ノ為メ、唯夫ハ其妻ト分離シテ生活
 漸次増加スル夫婦ハ其妻ト分離シテ生活
 旅行スルノ途程ヲ定メ、二人ノ旅行者トシテ一ハ全運慶
 フ以テ進シ他ハ其分ノ運慶ヲ以テ進シテ居ル
 テアハカ馬其運路ノ軌道ガ火花ヲ袋トシテ位ニ運カシ拜

想や終見茶岫ノ道達し進行シテ居ル之。又シテ女子ノ
方一瞬遊ノ為トシテ止シテ居テ自分自身ヲ能ク知ラナ
イ過去ノ痕跡ヲ固執シテ居ルノテアル。蓋シテ女子一擧一動
ニテ居ル。此ノ又一層達シテ進ム。之中夫ナラハ亦強ク
テ進ム。此トモセテアル。女子ノ擧一動一歩一歩
ハ取リシテハ不利益ヲテアル
然レ夫毒百白分白ヤ。蓋シテ生活ヲ維持スルコトヲ全
ク中弄ス。極シ見ユルノ一尤モ不良ノコトヲ一多ク之
致シテ一有クテ得ガレトテ居ル。蓋シテ長年一飽
享ク。此ノヤカニナル彼等ノ云フコトハ一擧一動ノ為メニ
又大キク其情ヲ察スルハ。ガガ夫ナリ。此ノコト等ヲ等スル
他人ノ會合ニ一親シテ一彼等ノ又ガトモ知ラナクハ。

動物學ノ歴史

大凡何ノ科學ト雖モ其發達ノ際ハ一中心ニ三種ノ時期
ヲ任過セバハナラヌ。茲テ夫一中心ノ事ヲ蒐集
シテ二一之ヲ分類シテ一テ三ニ一之ヲ一之ヲ一之ヲ
序ノ原點トシテ一之ヲ考ルルコトトシテ一之ヲ三時期ト
云フ。一之正ノ論理的区分ヲ中ニ一之原點トシテ一之
テ分ラセトガガ夫ナリ。テ元素ノ事候ヲ蒐集スルト其
一之又幾分カ之ヲ分類シ且フ相互ノ關係即チ其間ノ行ハ
ル。或則チモ不充足ナカラ考ルル。又ノテアル。是ノガ
自然ノ勢ヲ其際ヲ跡スルト云フ。深ク古人精々ノ構造
ニ基スル言ハナラナクハ。故シテ以上叙述シテ三
時期ハ年代ニ申リテ一之ヲ區別スルハ。ガガ夫ナリ。

テモ本理學ノ補助ヲ仰リニ至リ又從來一心理學ニ純正
ナル哲學トシテ視做サレシモ現時ニ多教ノ學女一之ヲ
目シテ純正理學トシテ追究スルニ至リ人間精神ノ本
体ヲ解明セシムルニ一須ラリ西者ノ關係ニ極ラガハ
ツカウニ如何トナレバコノ自然ヲ超越ニタルモノイ
テ必然一凡輩ノ自然其者ニアラガ一タナリサハ哲學
者カ人間精神ノ本體ヲ知悉セシメ欲セバ先ツ理學ノ便
軍ヲ籍ハシ若クハ無シ人間精神ノ局部ニアラズニテ其
全体ヲ總合ニテ識スニテハ更ニ萬有學ノ代表者ヨリ
哲學的ニ脚蹠ヲ要求セラレハガハ一カラズ然ラバ誰ヨリ
ニテコノカ請求セラレハマキカ而シテ至存ノ意味ト眞價
ト萬般ノ生活トハモノ、爲用ト一般ノ宇宙ノ本質ト執

キテ塵埃モ知ハレナリ今日偶然ナル職ニ汲々ニテ猶
漸リ明日ヲ違ヒ照シテ醉生夢死スルモノ一是一人間ノ
爲ヌコトキ東人類生存ノ最上福利ハ公衆ノ福利ハアリテ
存シ一定職務ノ制限セラレハモノ一アラズ各人ノ一序
教的ニ詳言スルハ最其意義シ於テ一善良ヲガハマシ
ラズ且ク其生涯ニ美的ニ詳言スルハ佳美ニ達シ而シテ
感セガハマカラズ又因果ノカラズル變化ハ於ケル格久
ナル真理ニ就テ一哲學的即チ思考ノカハルヲ要ス此
爲可シト云フ一爲スルヲ又ト云フ一ニ是其天職ヲ
有スルモノシヨリテ一人ノ上ニ要求シ補助シテ、作
用セガハルマカラズ一就中教育者及チ醫者ハアリテ一人類
本體ノ関スル哲學ノ分派ナル心理學ニ依據セカハリ得

かんモノ多し是レ彼等ハ生活上主ニ度降的ノ心理學者
 ナリハナリ故リ以テ心理學一教育家醫學者トリテハ
 其天職ニ屬スルモノナリ而シテ斯等ノ知識ハ各人ニ向
 テ希ハシキナリ其故如何ニ云フシ各人一多少自己
 ノ教育者ナリ自己ノ醫者ナリカハ一ツヤウナルヲ以テ
 リ吾人自己ヲ教育中奮勵セシムルニ一象限ニ任催スル
 カ爲メニ一先ヲ主トシテ吾人ナルモノヲ知ラザルハ
 其乃自己ヲ知ルニ一心理學ヲ教フハモノナリ吾人一
 同稱ニ内部ニ睥睨セル能力ハ自然ニ限奥セル其賦感以
 外ニ用矣伸展スルカラバコソニヨリテ知悉スルヲ得
 ベキナリテルヒトテハ「アホロ神聖ノ入口」掲ケラレタ
 ハ希佩箴言ヲ誌スル曰ク「*Je m'enne dich Selbst!*」

然リ而シテ吾人ニ自己ヲ知ルニヨリテ智識ト幸福ト道途
 ニ向テベシ心理學ハ度ニ精神即チ人間カイストヲ論ク
 ルノ科學ニシテ吾人一如何ナル精靈ノ在ム所ナルカヲ
 教一且フ吾人ノ自覺ナルヲ訓ス可シ吾人ノ周用ヲ獲ル
 所ノ由更ハコソ我精神ニヨリテ知ルハ心ヲ吾人ノ抱懐ス
 ル思想者ガ行テ所ノ行動ハ一皆吾精神ノ果實ニ外ナ
 リス膏テ希佩「哲學者曰ク「*Der Mensch ist das Meiss aller Dinge*」ト故ニ人間ノ精神學即チ心理學ハ凡百ノ人類科
 學ノ中巽ニ位シ此等諸科學ニ於テ自然ト精神ト主眼點
 之ヲ心理學ニ及ムト皆モ共同ニ積載スル樹幹ヨリ枝葉
 四出セルニ似タリ而シテ吾等自身ハ凡テノ思想行爲
 認識及ビ原理ノ傳スル中樞ニシテ吾等精一心ノ特性ナ

ル吾性狀ハ事物ガ如何ハ吾人ハ映シ且ツヤ吾人ガ如何
ニ事物ノ上ハ作用スルマキカヲ區別スルモノニシテ
竟今學ハント欲スル所一吾人自己アリニシテ吾人ハ
ノ事物ヲ測定スルキ尺度ナリハナリ吾人自道一賦
如何人間ハ何者ナルハキカコシ解明セント逸ル所
大問題ナリ賦ハ此問題中ハ既ハ解釋無キヤ問々所
モノ一吾人ナルハカ問題ハ一賦ハ何ナルカ之ヲ
明熱慮スルモノハ何カ是ハ精々ナリサハ吾人一精神
スルハ能ハズカカ餘リ一般ニテ不定ナリ吾カ精神
ハ概全リ一定ニタルモノニシテ或ハタル精神ニ
テ時變ヲ具備セルモノニシテ即チ人間ハ精神是ハ

十月稿

机上漫筆

○自主生存一人類ガ社会ノ一負トシテ國家ノ一負トシテ
生存スル上ハ其テ最モ重要ナルモノナリ且ツ人類最
大目的ナリ之ヲ全ウセシカ爲メハ諸人一致テ努力
テ活動シ社会ノ之カ爲メハ活動シ以テ主義アル歴史ヲ
作ル而メ自主生存有終ノ美ヲ克ウセシハ自己發展ノ
中要アリ自己發展ノ去夫ハ如何ヤ吾人ノ席ハ慎重
研究スル可キ問題ナリトス吾人々類ノ方面ニモ亦凡テ他
ノ事物ノ如クニ内外表裏ノ區別アリ此西方面ヲ満足セ
シムルハ非ズンバ完美ノ自主生存ノ実望ハ可カラズ其
内タル可キモノハ即チ吾人自主ノ基礎トナル可キ自己
身解ノ訓練ナリ其外トナル可キ一即チ智カノ發展ナリ

此二者合一して強力を成すル自主の権ヲ構成ス以テ人
權ヲ主張ハ可ク以テ自主行動ノ実ヲ成ス可ク又等吾
人ノ日常心ニ銘ンテ進路ノ向ヲ可キナリ
○東洋ノ風雲急ナリト其言ヲ聞クヤ久矣若シ夫ノ國政
宜ニヤヲ得テ國弱シ兵強カラバ四疆攘夷ノ群アリト雖
モ我ノ於テ何ノ畏ルハナキカヤ今ヤ獨逸好ヲ修メ併
又之ニ媚ニ相提携シテ東洋ノ後四ヲ割ル都テ我邦ノ内
ヲ省ニシテ財源絡ニテ整理ノ在ニ就カズ學期宜ニキリ
得ルニシテ變更亦變更教育ノ制度言フ可カラズ唯ノ石礎
玆の膨脹繁爛幸ニナハル兵備ノ擴張ハノニ之ニ恐入内空
ニシテ生活ノ程度感ノ進歩ヲ見ズ何ゾ是ノ本末顛倒ノ甚
ニキヤ兵ノ強キ一兵ノ強キハ非ズ民屬ナハナリ

一月

○我國ノ前途行程猶疑ニ海ノ一氣艇ノ走ルアリ陸ノ一
海軍ノ走ルアリ行リ林トシテ電柱ノ立タガハ一無リ電
線ノ蜘蛛網ヲ垂テリハ一無ク大學アリ中學アリ病院ア
リ劇場アリ高帽高襟ノ紳士アリ歐洲ノ文物ヲ輸入積攸
ニテ備ヘテリハ一林無ク皮想の文明ヲ於テハ甚モ缺ク
トコロヲ見ズ然レモ其ノ其内界ヲ觀察スルニ其為政ハ
如何ノ政客羣衆トシテ動リモ唯之ノ汚水ノ中ニ存ス
ルヲ見ルニ其理想トシテ一馬ヤ依リ且フ卑シク無情ノ政
本ノ積存シテ相ノ子ヲ作り一己自國ノセニアムヨリ製
リ申シタルモノアラズ之カ爲ニ行政ハ一定見無ク墾々
トシテ水ノ澄フ水母ノ似タリ現場ノ腐穢ノ紳士ナリ
ノヲ見ル高麗ヲ載キ金時計ヲ輝カシ洋装ニシテ以テ死

人ト爲ン上流紳士、標本ナリト思考スルモノ比々皆
是ナリ何ア其丘墨ナハヤ其理想ヲ歐ケバ空虚ニシテ其
學識ヲ見コト或薄其行動ヤ卑劣卑子ノ風無シ我國現時
ノ教育者ニ見コト自當同化主義以テ各人ノ自強ノ特質ヲ充
輝セシムルハハ勢メズ其人物ハ下卑其行動ヤ兩能以テ教
育者ノ體ヲ得タリトナス學者極ル者多ク其學識ヤ君子
照タルモ多クハ是ハ無能若勃カラ失ハルノ人ニシテ物
ヲ現時ノ信仰ノ如キモノ皆是ナリ教育ノ何タルヲ解ヒ
カ唯若西ノ制度ハ眩惑シ之ヲ極西ニシテ却テ其ヲ用キテ
猫ノ類スルノ事多ク其人ヤ多クハ之ヲアロトケルハ
ラニニシテ熱誠ニシテ教育者其者ノ仕重ヤテ解マズ之
我國現時ノホテ大ニ教育者ノ淘汰ヲ要スル所ナリトス

僧侶ノ見コト佛陀ノ光明輝ク暗ク経典ハ唯型式ニシテ教
像タリ高僧ハ佛一ラハモノハ蕭々十人門徒ト称ヒ
御達者ト呼ブ何ア事ノ指掌ナラオヤ或ハ名利ニ事ト
シテ教育ノ可カラガハト却テ信人トシテ其ノ道義ヲ蔑
視シ或戒ヲ檀ニシテ以テ快リノ外ハ招然タリト思フハ
現時ノ僧侶ナルモノハ大半一怪誕ニシテ性然水ヲ注ガ
ハハ似タリ之ハ佛教ノ信仰軌リ地ニ成シテ文化ノ泰座ト
拜ヘテ却テ退歩ニシテ驕横恣ニカハ以テナリトス其軍
人トシテ見コト前ニ一日清ノ戰争ハ陰ニ武勇一時赫々々
リント雖モ今ヤ漸ク元氣消欽シテ舊時ノ霸氣復々見ル
マナラズ北清ノ野ニ各國聯合ノ軍トスル也ニテ反シて
リ来ハヤ將校ノ分捕門息トナリ事々其端ヲ動カシ今ヤ

我國ノ革命地ニ於テ士氣方ハ衰フルヲ證シテ條リアリ
我國現今ノ高貴ハ其信申ツ重クモ一之ヲホリ
ハ甚ク難シ或ハ不正只ヲ正只ナリトシ或ハ不正ノ一
ナニテ暴刑ヲ負ラントシ其謂也正直一最モ永保スル
ナル美言ヲ知ラズ而シテ其企圖スル此々小其行爲ク省
等ニシテ取ルニ足ル可キモノ少ナシ一般人民ハ見テ確
固タル定見ヲキテ支那人ハモ劣ルトス口多ク理想低ク
急情ト云フベカラカシム確ヤシ勤勉ナラズ皮相ヲ識リ
テ博學ナリトシヤオ子生息ハ徒横行シ黄金ヲ内ニ積ム
モノハ唯無益ノ事ト向テ之ヲ清者スルモ清テ有益不
ノ為メハ投資スル一少ナシ社会正義ノ信念シク小
事ハ拘泥シテ大觀セザルハ是ハ一般ニ見ル通弊ナリトス

○悟リテ開クナル諸盛ハ流行ス何ヲカ悟リテ
キカ之ハ大ニ疑問ナルナリ世人大幸悟リテ眞意ヲ解セ
ズ事ハ無拍着ナラテ以テ悟リト爲シ鉄面一層ヲ加フ
ルヲ以テ悟リトナス現時ノ僧侶ハ見テ警峰ノ月夜ハ
暗ク佛陀ノ信仰漸ク薄ク隨喜湯仰ハ疾乾固ニ外教亦入
リ来リテ之ニ代ラントスルハ今日ハ陰シクモ門ヲ立ツ
宗派ハ極意ヲ得タシモノトナシ傲然改匠ニテ敢テ憚ラズ
今日ノ僧侶ハ其ノ一実ハ社会ノ毒薬ナリモノ之ヲ剪
滅シテ以テ大ニ革新ヲ施シテ而シテ後ハ初メテ玲瓏タ
ハ皓月ヲ高峯ハ見ル可ナリ故ニ現時ノ怪蛙ナリ彼ノ雲
モノハ多数ハ鉄面皮者ナリ偽善者ナリ怪蛙ナリ彼ノ雲

此律師見釋字義見彼何者一皮敗之也
之變人ヲ或ハス故ハ性物ハ過中ナルナリ其為僧ト稱
ヘラシ悟リテ開キタル人ト稱セリハ非ナリ非ナリ
之ハ皆偽ナリナリ彼ハ高僧ト稱ヘラハハモ社会道義
有メシ益也シタルモノ夫ハ我何アリヤ或テノ一却テ毒
ニタルモノ多カラン名譽利ノ為メニハ自己ノ地位ヲ
忘却シ去ス性トシテ人情ノ何且ハ存スルカヲ侮マズ其
教者ナルモノハ孰ラ見ルハ偽然考坐ニテ護法ヲ運ラシ
テ人々ヲ惑惑セシメ生立三拜センメラ也ハ為メハ聽
者ニ尊敬ノ意ヲ盡シテ鳴牛何ア其事ノ浩繁ニシテ且ツ
馬車名タルヤ或ハ其陸面ヲ拜センタルハキ取種ヲ取リ
或ハ老人ヲ或ハシテ財物ヲ得名利肉慾ニツタラシ糖コム

三十四年七月
稿

生存競争論

宇宙、廣ノ萬物、多シ天ハ蒼地ハ玄此間ニ生ヲ受クル
モノ帯ニ蠢動タリ性々タリ是ハ物萬物活動ノ根源ニ基
ヲ其依ラ來ル所ニ深ニ熟ク天地間萬物ヲ覽見スルハ交
互辭語日月其位ヲ得無數ノ星辰ハ能ク其宿ニ安シシ
時廻リ晝夜運行ニテ敢テ其規運ヲ違フナリ草木鬱鬱
禽獸啼鳴奔躍シ昆虫ハ脚ハ魚鱗涎爛山岳巍峨タリ海洋
歌ハ天地悠々長ハハ其終ルコトヲ見ズ然レモ是ハ唯
其外貌ニシテ百尺梓頭猶一步武ヲ進メ能ク萬物存在ノ
理ヲ窺ハバ其間始終不変ノ理ノ存スルアリテ幾億萬年
中 乾轉ニ坤廻リテ衰ハ幾億星萬物雜多活動ニテ
瞬時ニ散ラコトナシ却ケ大小小ヲ聚メ小ハ大ニ系ニ相

聯係之ハトト墜珠ノ如シ眩々タル星辰是々タル日輪各
一 大系統ヲ作り無限ノ宇宙ニ播かり絲牽繩聯相結合
ニテ運行絶エズ時ニ或ハ流星光ヲ展キテ南ニ飛ビ地球
裏鳴光ヲ成キテ天空ニ飛ブ之レ天体現象ノ顯著ナルニ
ノニテ且ソマ天体ノ大小アリ老若アリ老イタルモノ
ハ早リ滅シ若キモノハ存スルコト長シサレバ宇宙ノ散
墜スル天体ハ時ニ共ニ運行変移シ時ニ從テ消滅壞死シ
自然元則ニ從ヒ更迭循環ニテ終始ナカレ可シ大ナルモ
ノハホソ合キントシ小ハ各自ノ存在ヲ保クントシ為メ
ニ引カノ作用ニヨリテ調和融化ニ達ス求心ノ二力合同
ニテ諸天体ハ其位置ヲ固執シ世界創造ノ往古ヨリ各其
道ヲ得其司シスヲテテオシニ由リ運行致ニガレ以テ新

ナリ

目ヲ放ケテ熟シ自然界ヲ通觀スルハ至ル所迄劇場ニ
テ或ハ滅シ或ハ現ルニ或ハ悲劇トナリ或ハ喜劇ト爲シ
永劫不断ノ舞臺ヲ現ル人常ニ感觸目撃スル所ノ風雨
雷霆四時晝夜ノ更迭ヨリ日月星辰ノ空ニテ此宇宙周
ニ存在スル限リ活動ノ範圍ヲ出スルコトナリ其結果ハ
ニテ至極消滅運行中現ニテ止ニテ皆ニ是レ之ヲ泗ルタ
ル江河ノ水面上ニ生スル泡木ノ蟻ニカク琪瑛ハ生物非
生物ヲ肉ハク森羅ノ萬象ニ通シテ護ハコトナリ往古三
千ノ古釋迦之ヲ説キテ輪回ト云春西ニ哲學者之ヲ呼ブ
萬物變化不城ノ理ト云テ以テ印度哲學ノ基礎ヲ作り以
軌述科學ノ進歩ヲ致セリ是レ因テ能ハレテ片宙創造ノ

ニ

初し翹ハ先莫知ル、申ナク類ヲ、術ナク混沌タル一
塊思唯、況凡トシテ及ハザルヲ如キニ宇宙萬物ヲ若人
ノ脳裡ニ總念包括シ之ヲ解明シ、現時萬象變化、趨向成
立ノ如何ヲ尋ネテ以テ實未クナリ以テ過去幾萬
年ノ古ニ至ル想像理解スル宜シ難キノ業ナラシムヤ是レ度
ニ科學ノ攻敵セザルヲ以テ所人類理想ノ發原ノ源泉ナリ
天文學ハ現時天体ノ状体運行變移ノ有様ヲ察シテ宇宙
創造ノ昔ヲ溯ルニ以テ實未ク豫想スルニ生物學ハ生
物ノ取態ヨリ内部ノ組織ニ及ビ生物ノ因テ生ズル以テ所
際因結果ヲ說明シ自傳及ビ他傳ノ關係ノ理ヲ知リ
進化ノ理ヲ認知シ過去實未クナリ其間ニ存スル不變ノ
理ヲ發見スルニテリ化學ハ物体原子同ノ原理ヲ知リ萬

物成生ノ本際ヲ説キ物理學ハ物体相立ニ存在スル不易
ノ理ヲ說明シ之ガ副産ヲ發見スルニテリ或ハ地質學ハ
ナリテ地界創造ノ古ニ溯リ礦物界一定秩序ノ理ヲ明知
シ或ハ地學ハナリ地質學ハナリ美學ハナリ文學ハナリ或
ハ以テ治理ノ基ヲ所造般ノ學皆之ニ發原到達ノ獎歸ヲ
一ニシ共ニ人又ノ氣運ト人類階級ヲ進隣自然實理ニ合
一スルニテリ
斯リノ如ク自然界ハ莫ク活動ノ者幾ニシテ表遷移動ハ
其本條ナリ以テ時間空間ヲ容納シ生ズ變轉後動ノ理ハ
萬物ニ通シ生非ノ別ナリ宇宙活動ノ根源ヲ作リ蘇シ生
物界ハアリテ變移一層甚シク大ニ小ヲ合セ強ハ弱ヲ
滅ス蕃殖力弱盛ナルモニ之ガ僅少ナルモノハ勝テ智ハ愚

(Henslow) 氏。執テ植物學ヲ修メ始メテ古ク博物學
ニ傾ケ其ノ齡廿二歳ノ時博物學上ニ関シ海峽ニ
在リ其ノ築シ五年周ニ其ノ一週ニ以テ常ク生物學上
ノ事實ヲ蒐集セハコト極メテ夥多ナリキ氏ハ此特
當リ餘ヲ氏ノ從來目撃セル生物ニ異リタル生物及
其睡シ之カ為テ大ニ生物學上ノ思想ヲ増益シ航渡南
米ニ至リシ時已ニ生物ノ種ノ原始ニ付テ考索セリ乃
テ南米大陸ヲ陸ル凡ソ五六百哩ノ太平洋ニ在リガ
ラバコト遠島ニ於テ多クノ鳥類ヲ調査シ其ノ島ニ在
ル陸鳥ノ種類ニ十六ニシテ内ニ十一種ハ獨リ同島ニ
ノニ在ルコトヲ知リ又同島ニ産スル十一種ハ水島中
僅クシ二種ハ只同島ニノニ生産スルモノナルヲ知レリ

氏ハ是等ノ事實及ビ地質學上ノ事實ヨリ推究シ既ニ
種類ニ漸次ニ変遷スルモノナルコトヲ悟リ其ノ概
論ヲ終リシ後帯ニ秋間題ヲ腦中ニ蓄藏シ以テ其ノ事
實ヲ蒐集セリ氏ニ其後ノ志ヲ示シタル人(Henslow
mus Darwin)ト云ウラぬ(Travellers)ガ云ヒ(Goethe)「らまあ
」(Lamarck)「せんせ」ハ云ヒ(St. Hilaire)等諸氏ト同クノ
生物ノ種ナルモノハ其原始ニ簡單ニシテ以テ後ニ復
遷進歩シタルモノナリト爲セリ然レモ獨リ氏ガ諸氏
ノ異ナリタル卓見ニ即テ其ノ論法説是レナリ
○氏ハ自カク多ク動物ヲ畜養シテ其家畜動物中ニ
多クノ変種ヲ生ムルヲ費見シ如何ニシテ其ノ変種ヲ
生ズルカヲ考究シ因テ以テ天然ニ生ズル中ノ之ト同一

理、有ルニエ、ヲ知、リ此、於、テ始、メ、ヲ淘汰、説、ク、等
 出、セ、リ、ト、云、フ、
 人、爲、淘汰、凡、ソ、余、輩、ガ、飼、畜、培、養、ス、ル、動、植、物、概、不、多
 少、変、種、セ、ガ、ル、ハ、無、シ、其、植、物、中、ニ、テ、彼、ノ、躑、躑、椿、朝、顔、菊
 等、ノ、如、キ、又、大、根、莖、莖、等、ノ、如、キ、一、就、中、大、キ、其、種、ヲ、変
 ス、ル、モ、ノ、ナ、リ、動、物、ノ、於、ケ、ル、モ、亦、同、シ、ク、全、卑、ノ、如、キ、兔
 ノ、如、キ、家、雞、ノ、如、キ、鳩、ノ、如、キ、皆、多、ク、変、種、アル、ヲ、見、ル、ト、
 リ、而、シ、テ、其、ノ、変、種、ヲ、生、ス、ル、由、因、ニ、二、様、アリ、一、ハ、直、接
 ン、生、物、体、ノ、働、キ、一、ハ、間、接、ニ、生、物、ノ、生、殖、器、ノ、働、キ、ニ、
 一、ハ、此、ノ、二、因、ノ、働、キ、上、ニ、又、二、原因、アリ、一、ハ、生
 物、ノ、体、好、ノ、在、リ、一、ハ、其、ノ、外、界、ノ、在、リ、而、シ、テ、體、内、ノ、構
 造、ノ、於、ケ、ル、モ、一、之、ノ、外、界、ノ、於、ケ、ル、モ、一、比、ス、ル、ハ、

殊、ニ、中、要、ナ、リ、何、ト、ナ、レ、ハ、生、物、體、内、ノ、変、化、ハ、外、界、ノ、條
 動、ノ、物、ヲ、自、カ、ラ、種、々、ニ、變、ジ、又、ハ、外、界、ノ、變、遷、ニ、從、フ
 同、シ、ク、變、化、ヲ、生、ズ、ル、エ、ト、ア、レ、ハ、ナ、リ
 英國、ノ、於、テ、ハ、大、ニ、鳩、ヲ、畜、養、シ、多、ク、其、ノ、變、種、ヲ、造、リ、シ、
 之、ヲ、玩、弄、物、ト、ナ、セ、リ、尤、ウ、ウ、ハ、氏、ハ、鳩、ヲ、畜、養、組、合、ニ、加
 入、シ、自、カ、ラ、畜、養、ニ、從、事、シ、テ、其、ノ、種、類、變、化、ニ、就、テ、能、ク、
 冥、察、セ、リ、鳩、ノ、變、種、一、段、ニ、大、ナル、モ、一、ニ、テ、一、目、其、ノ
 變、異、ノ、甚、ダ、ニ、キ、シ、驚、カ、サ、ル、ヲ、得、ル、英國、ニ、テ、カ、リ、エ、シ、
 (Camer) 大、人、ぶ、れ、(Tumblers) 一、様、ス、ル、モ、ノ、如、キ、是、ヲ、リ、
 カ、リ、エ、シ、ハ、頭、ニ、雞、冠、様、ノ、羽、毛、ヲ、生、ジ、眼、縁、ニ、非、常、ニ、延
 長、シ、帶、孔、ハ、大、ニ、シ、テ、嘴、ノ、亦、大、ナ、リ、然、ル、モ、大、人、ぶ、れ、ニ、
 鳩、ノ、嘴、ハ、小、シ、ニ、テ、通、常、ノ、雀、ノ、如、ク、且、高、飛、ニ、能、ク、其、中、
 大

ニ此ヲ自在ニ轉回飛翔スルノ習慣トナシ而シテニ者
ハ其ノ外形ノ相異ナルト共ニ内部ノ構造ニ亦又、異
ナリ若シテ比較スルトキハ動物學者ト雖モ各別種
タルノシテナラズ別屬タルモノト見做ス可シ
然レ瓦斯ノ如キ種々異様ノ形取ナル鳩ノ変種一恣ツ
カハラハ七 (Columba livia) ヲリ来セルモノタルニトハ動
物學者ノ一般ニ主張スル所ニシテ莫説ト云フ一ニ何
トナレバ若シテ殊等諸種ノ鳩鳩ニシテ悉ク異種ヨリ生
シタルモノトスルトキハトキハトキトモ七八種ノ相種
ヲカハラ得ズ且フ其ノ相種ニテ既ニ消滅ニ帰シタル
モノタラザルヲ得ガレバナリ聖レ凡鳩ノ如キ鳥類ノ
全ク消滅ニ帰スルハ到底ナラ可カラザル理ナリ加之

家鳩ハ多ク諸國ニ於テ野飼トナセル者トモ能ク山
野ノ生活ニ馴ル、モノナリ獨リたぶこぢぢ、いぢぢ
(Dovecot Pigeon) ト云フカハラハ、近キ鳩ノシ野飼ト
爲シテ能ク山野ノ生活ニ馴ルヲ見レバ是レ恐クハ
其ノ相種シテキモノタル一ニ生物學者ノ実験ニ由ル
ニ山野ノ生活スル動物ヲ以テ家畜ニ馴練スルハ、其
至難ナルカ故ニ若シ家鳩ノ変種ニシテ果シテ皆異種
ヨリ来リタルモノト爲サバ、半開時代ノ人民ガ既ニ少
クトモ七八種ノ鳩ヲ家畜トナシタリト思考セザルヲ
得コト
又、あけらば、此ノ羽色ハ全体石板色ヲナシ、尾ノ尖端ハ
黒色ノ帯アリテ翼ニモ二條ノ黒帯アリテ殊等ノ諸帯

皆ナ家鳩ニシテアリ且家鳩ノ種類ヲ二個相集メ之ヲ
シテ交尾セシムルトキ一其産ムル混交兒ニ皆ナ能ク
かわりば七ニ類似ス可シ

我國ノ金魚ノ如キモ亦其ノ変種物多シシテ或ハ身体
長クシテ尾ノ短キアリ(和名ノ如ク)或ハ身体短クシテ
尾ノ長キアリ(リウキンノ如キ)或ハまるとノ如キ異様
ノモノアリ又其ノ鱗鱗中軸ヨリ二葉トナリ左右ニ別
カルモノアリ殊等諸変種(まるとハ變種ニ非ルト雖
モ)ハ其ノ相ヲ緝スルハ皆ナ一種ノ鰓附(Carassius auratus
antiaced)ニシテ人工ヲ任テ斯ク種々ニ変シタルモノ
ナリ
如何ニシテ斯ノ如キ変種ノ生エルカ凡ソ生物ノ變化

ハ皆因ヨリ成坐ニ出フルニ非ズシテ漸々微少ノ變化
ヨリ来ルモノナリ然レモ吾人々類ガ便彼ムル犬類ノ
變種ヲ見ルニ各其ノ要點ニ於テ變シタルハ又明カナリ
例一ハ狼犬ノ如キ鬣犬ノ如キ牧場ニ在テ群羊ヲ守ル
犬ノ如キ牧羊犬ノ如キ或ハ夜同人家ヲ護衛ス
ル犬ノ如キ各其要點ニ於テ其ノ形似性質ヲ異シ人
ノ嗜好ニ応ジテ其ノ用ヲ爲スルニ至ルハ啻ニ生物ノ可
スル自然ノ變移力ノコト因ルニ非ズ且ツ其ノ變化ノ
如キモ一時成坐ニ生ワルニ非ズ人類ガ多年ノ訓練ニ
由テ形質ノ要點ヲ變スルニ至ルナリ其ノ形質ノ變蓋
シ人ノ生物自然ノ變遷ヲ見之テ取リテ已レカ欲スル
所ノ要點ニ其ノ形質ヲ變セシムルヲ得可ク其ノ變遷

セシナルコトヲ名ケテ人^カ海^カ海^カト云フナリ
此海法ハ人類ノ能ク行フ所ニシテ其成集ノ如
キ一今日余輩カ飼養スル家畜動物及ク培養植物ノ就
テ明カナリ

海法説ハ密ニ理論ノコトヲ拘泥スルモノニ非ズ実験上
其ノ成績ヲ見ルヲ得可シ例一ハ西洋花ナリ(Viola tricolor)
ノ如キハ歐洲ニ於テハ多ク山野ニ生シ其形状彩色共
ニ甚ク簡單淡泊ナルニ其ノ花園ニ在ルモノハ余輩人
類ノ培養ニ因テ大ニ淘汰セラルナリサレバ所不
^ク(Hofmann)氏ハ多年苦学シテ該草ノ野生ナルモノヲ
取リ花園ニ生ズルカ如ク美化ヲ生セシメタリキ又獨
逸國ニ在リ州ニ於テハ多ク綿羊ノ畜養ニ毎月二

回其ノ草ヲ集メ其長種ヲ精選シテ交換セシム以テ精
良ナル羊種ヲ産出セリ前述セシ全魚ノ如キモ其ノ卵
ニシテ孵化ニテ生長スル際巧ニシテ之ヲ養飼スルニ非
ルニ美也トナシモノ甚ク少ナクニテ通常ノ鱒魚ノ似
タルモノ多ク生ズルニ是ハ全ク其祖先ナル鱒魚ノ遺
産スルカ故ナリ今茲ニ最モ解ニ易キ一例ヲ舉示セン
ニ西洋ノ櫻樹ハ果實大形ニシテ味極メテ美ナレドモ
我國ノ櫻樹ハ果實小ニシテ味ナク以テ人ノ食トナス
ニ足ラズ之レ又ニ西洋ノ櫻樹ハ素姿ニシテ見ルニ足
ラズト雖モ我國ノ櫻花ハ實ニ艶美ニシテ觀賞スル
ニ餘リナリ是ニ彼我ノ櫻樹其ノ種元ト一ナリケルニ
我レハアリテ其花ヲ愛シ常ニ注意シテ之ヲ淘汰シ

彼一、在ヲハ其ノ花ヲ愛セ、只果實ノ美ナルモ
人、之ヲ選擇シ、之ヲ淘汰シタルニ因リ
従来吾人が動物ヲ飼畜シ、之ヲシテ有益トシメ、或ハ
自口ヲ耳目ヲ繁クシタルニ是ハモノヲ産出セシカ如
キ及ビ植物ノ培養シテ能ク美麗ナル花ヲ用カシメ、或
ハ好味ナル果實ヲ結バシメシ等ハ多クハ吾人自身モ
不知不識ノ圃ニ於テ淘汰ヲ行ヒ来リタルモノナリ、學
問上ニテハ一蹴ノ四五十年前ニ至リテ始メテ其ノ事實
ヲ研究セリト雖モ、數百年前ヨリ其等淘汰ノ法、自
ナリ存在セリ然レモ是等ノ變化ニ味シテ一時ニ成ル
モノハ非ズシテ、實ニ數代ノ間、毎ニ微々タル變化
ヲ積シ来リ漸ク其ノ結果ヲ見ルニ至ルモノナリ

人間社會ニ於テモ大イニ此淘汰法ヲ行ヒタル例少カ
ラズ昔古キ時、あ凡人ノ如キハ知少ナル男子間ニ於
テ大イニ淘汰法ヲ行ヒ、其体格ノ弱小ナルモノ、或ハ不
具ナルモノ、皆之ヲ殺シ、唯強壯ニシテ体格健全ナル
モノハ、之ヲ成長セシメ、以テ其子孫ヲ後世ニ殘ルコトヲ
得シメシヲ以テすば、あ凡人ノ男子ハ、漸次、強カ健骨
ニ至リ、遂ニ歴史上彼ノ如ク有名ナル戰軍者ヲシラシメ
タリ、又すば、凡人ノ如キハ、如キ國法ハ、アウガシ
トモ、肉明人種中ニ於テハ、肉明ノ度、一從ヒ職務ノ分業
學校ノ制度等ト共ニ、腦力上ニ於テ一種ノ淘汰法起リ
腦力ノ微弱ナルモノハ、自然ニ取除カハ、モノナリ
夫レ欺ルノ如ク吾人々類ガ動物ノ如ク、淘汰法ヲ以テ、變種

十

之ヲ畜養スル收者ハ中ニ能ク各個別異ナルヲ知ル可
シ犬ノ如キ不ノ如キモ皆之ニ要ナリナリナリ蓋シ吾
人々類間ニ於ケルモ未ダ視境ノ慣レカハシ畜シハ又
照シガハリ得ル若シ如クテ欧米人ヲ見ナハ欧米人
鶴ヲ同一取極ナルモノ、如ク見ユ久シク之ト交際ス
ルニ早クハ中ノ相異ナルヲ示スハヲ識別スルニ至ラシ
他ノ動物ノ如キモ蓋シ之シ異ナリト雖モ唯余草ノ朕
目ガ之ニ慣レカハシ因ルニ一種ノ動物ト雖モ牛ノ
皆同一取極ナル、非レ各個別異ノ要同アラハルハ無
レ而シテ殊異同アルコトハ實シ以テ淘汰シ中要ナルコ
トナリ即チ吾人ノ如何シ尽カストモ鮮中シ以テふト
絲ニ通帯リリ紅色ヲ帯フハモノヤウナルトキハ決シ

之ニカハルマ大ナリ而シテ其ノ変種上三個ノ必要アリ
第一生物ハ極メテ変化シ易キモノタル一葉ニ生物ハ
又祖ノ取極ヲ其ノ子孫ニ遺傳スルモノタルト第一葉ニ
変種ヲ採擇シテ之ヲ畜養スルモノナルト是レナリ
今在シ其概畧ヲ説述スルコト
第一生物ハ極メテ変化シ易キモノタルコト
第二就テ之ヲ見ルモ其ノ同一種類中ニ非常ニ多異
シヲ知ル可シ我日本人中ニ於テモ若シ二人ヲ併列シ
テ之ヲ見ナハ相立余ク同取極ナルモノナリ故レ他
ノ生物ハ於ケルモ亦之レ同シト雖モ吾人ノ視力ハ
吾人ノ類ヲ見ル如キ習慣ヲ有セカハリヲ以テ蓋シ吾
人ノ群羊ヲ見ルトキハ各羊皆同取極ノ如クナレハ

テ全英リ陶法ニ出スエト家ハガハナリ吾人カ培養ス
ハ花ニ異変ニ皆同クノ一種中ニ異ナリタルモノナリ
ヲ見テ始メテ変種ヲ造リ出スエトヲ得ルモノナリ決
シテ始メテ吾人カ造リ出スエトハ非ラガハナリ
隣ニ生物ハ友祖ハ形骸ハ子孫ハ遺傳ハルモノナリ
生物ハ皆能ク其ノ親ニ類似スルモノタルハ吾人ノ普
ク知ル所ニシテ又リ疑フモノ無ク又其ノ通帯
ノ現象タルヲ以テ深ク其ノ理由ヲ問ヒタル人モ多ク
アテガリキ而テ以テ深ク其ノ理由ヲ問ヒタル人モ多ク
種類ヲ変ズルハ此クハ缺クハカガハナリ事實ナリ全英
商カ如何ノ良好ナル全英ノ変種ヲ成見シテ陶法ニ
テ良全英ノ造リ出シト欲スルモ其ノ形骸ヲ子孫ニ

遺傳セガハルトキ一決シテ良種ヲ造リ出スエト能ハザ
ルナリ然レモ同ナル親ニシテ生口ニ所ノ子モ亦サ
シモ全ク同クキエトナリ少クハ異同アルモノナ
レバ遺傳ハ同クキエトヨリ同クキエトヨリ生ス
ヨリ却テ似タルモノヨリ似タルモノヲ生スト云フ
テ極當ナルニシ
右ノ理由ナルヲ以テ吾人ハ生物ヲ多量ニテ変種ヲ生
ズルモノシテ其ノ要領異形ヲ攪拌シテ以テ吾人ハ
類シ中要ナル生物ヲ生センタルモノハ芽ニナル多量
人ナリ而シテ知子ウおん氏ハ問フハ左ノ問題ヲ以テ
セリ曰ク自然ハホクモ亦人類カ生物ヲ多量陶法ニ
カ如ク知ルナリヤ自然ハ此ケル生物内外ノ關係ハ亦

吾人并多養セシ生物ヲ知ルルガ如ク猶太セラハ、
コトヲ要スルヲ而シテハ此肉係ナルコトヲ發見シ以
テ生物内ニ於テ又一犬類ノ行ハルコトヲ發見セ
リ生存競争ノ事ナリ

○尤もこの人長ハ前ニ述ビシ如ク南米ノ花ヲ多ク奇
異ナル現象ニ會シ種類ト云フモノハ皆共ニ同一ノ祖
先ヨリ出テ来リタルモノナリト云フ想像ヲ起シ英國
ニ歸リシ以來家畜禽獸或ハ培養植物ヲ以テ此事宜ク
證シ多ク同其ノ原因ヲ尋テ天ルニ因ニ居リシガ圖ラズ
まるさす氏ノ人口論ヲ読シ概シテ人口ハ幾何數進ヲ
以テ増加スルハ食物ハ美術發達ヲ以テ増加スルハ人
間ノ内ニ於テ身々々々ニ競争ノ生ラハル自然ノ理ナリト

明治三十九年四月

運動論

吾人一日常ノ經驗及ビ現象ノ上ヨリ略カク概念ヲ知ル
テ得たり即チキヲ以テ物体ヲ保持シ風ノ吹キテ樹木
ヲ折ルカ如キ凡テ力ノ現象ニテエネルヤ一ノ種ノ
外ナラズ而シテ運動ニ亦此力ノ發動セルモノニシテ寒
宇百般ノ事物ニモ一カ現象ナリ故ニ森羅ノ多キ萬象ノ
豊麗ナルモ力及ビ運動ノ元則ヲ以テ解ス得マシ孰シ分
子ノ運動ヨリ生ズル如キ固体流体重力電氣皆此法則ノ
外ニ逸セズ物理学ノ發達ハ力及ビ運動ノ法則ヲ數學的
知リテ至リテ長足ノ進歩ヲナシタルモノニシテ拾六世
紀ニ當リテ理學家ノ大斗ニシテ氏出デ、學界ノ面目
ヲ一新シテ力ニ運動ヲ起ス根源ニシテ氏ハ運動ノ三

一六四三
一七二七

大法則ヲ確立シタリ一曰ク物体ハ他力ノ之ヲ制スル
ナケンバ常ニ静止シ或ハ同一ノ方向ニ直線運動ヲナス
ニシト二曰ク運動ノ変化ハ之ニ働ク力ノ比例ニ常ニ
力ノ作用ニタル方向ニ於テ行クト三曰ク一物体他物
体ニ作用スルハ之ニ等シク向テ相及ニタル反作用行
ハシ若クハ二箇物体互ニ行ク作用ハ常ニ等シク其方
向ニ相及スル是ニ運動學機械學基礎タル法則ニテ最
モ肝要ナルモノナリ運動ヲ分ケテニフトナス等速運動不
等速運動是ナリ不等速運動ヲ更ニ分ケテ等加速運動及
不等加速運動トナス吾人一運動ヲ論ズルニ當リテ速度
及ビ加速度ナル辭ノ意義ヲ明解シ之ヲ區別セザルニカ
ラズ夫レ速度トハ物体運動ノ緩急ヲ表ハスモノニシテ

長サト時ハノ關係ナリ今セセセ等ノ時間ニ於テ長サ
ノ距離ヲ運動スルトセハ其速度ハクハ其速
ヲ以テ表ハスベクユレガ大ナルモノハ通常速度大ナリ
ト云ヒ小ナルモノハ之ニ反シテ速度小ナリト云フ而シ
テニニヨリテ運動ノ緩急ヲ表ハスニハ加速度トハ之
ト全ク別異ノモノニシテ運動変化ノ割合ヲ示スモノニ
テ今一莫ク於ケル速度ヲ以テセテ其間ノ後其速度變
化テトナリタリトスニハ加速度ハ大ナリト云フニ表
ハサシコシカ大ナルモノハ一加速度大ナリト云フニ表
セハナシバ之ニ反ス即チ知ル加速度ハ大ナルモノハ同
一時向ニ於テ他ノリモ速度変化ノ甚キモノニシテ落
下物体ノ如ク一其割合ナリ速度大ナリト云フニ表
スルハ吾人

第十一節 溶解
 第十二節 テオロイド
 第十三節 浸透
 第十四節 浸透圧力
 第十五節 テオロイド

第二章 液体ノ動力學 Hydrodynamik

第一節 液体ノ運動
 第二節 せりせりの定律
 第三節 渦
 第四節 ヲッセルモットル
 第五節 水車

流體

第一章 液体の静力学 Hydrostatick

第一節 液体の静止

夫凡液体の固体と異なる、其部分を容易に引き放すことを得るにあり而して液体は瓦斯体ハ二者共に其容積を縮小するに難く、故に對する弾力性ハ強けぬや、液体は瓦斯体に比して、故者更に大なり、流体は液体、瓦斯体は總括せる名稱にして、瓦斯体を液体と區別して、乾燥流体と呼ぶにあり。

液体、瓦斯体は共に容易に形を変へ得る、其は通有なり、吾人の今、形に對する弾力性より出づる結論より初め、逐次論述せむと、此以下、流体ニ就きて、研究を先ず。

内部の一分子に於ける壓力を考ふる必要あり其起るは流
体各分子間の關係に基つくものなりと固体の彈力と同
一の原由を有するものありと固体と液体とは自らら
差違あるが故に從て異りたる名稱の下に論及せし
流体を以て平均するものあり今吾人の証明せむと欲
し申す以て平均するものあり今吾人の証明せむと欲
するは壓力を考へらるる面に直角ありせよとあり之
を逆に考へれば器の面の度くる壓力は直角ありせよと
あり若し壓力面に對して直角あらんことを必らずは則
ち之を分力の込にありと面に直角ある者と然らざるも
のとの二つに分つことを得し直角に働く力は常に考
へ得べきものありとも面に對して働く力は之に抵抗を

る力あらざるが故に、こせしるに同一にて此方向に
運動し液体或は氣體は静止せざるものありと然るも
今考ふるものなり液体静止の場合あれば此前提を戻ら
ざるを得るが故に液体は中を器の壁に直角あり壓力の側
面の外ならん内部に於ても考へ得べきものありと凡そ
の方面にこれあるが爲めは相平均して静止の有様にあ
るあり壓力の位置によりて異り面積廣くあれは之
に比例して壓力も大なり面積を一定めあれは之と所要
り斯の如くにして液体或は瓦斯体の一葉に於ける壓力を
考へば、流体の并に此面積を持ち行き面積を dA とし
其要くる壓力を dP とすれば壓力 $P = \int dP$ を以て表示せら
るべし力と面積にて除したるものありと彼のストロムと

同一ありては「ド」のイニテシテ上の意ふれとも通
 別畧して單に壓力と云ふ又壓力は一部小面積に非
 して面積全体に就きて考ふるにあり前者を區別し
 之も全壓力と稱す
 主定律一、流体内部一處に於ける壓力は方向に無関係
 一處に於ける壓力は方向に無関係あるに非し既に明白
 なるにあらざるを下の規則より示す形に證明す
 今流体中に其一部として四面体を考ふ而して吾人の故
 宛に静止平均の有様はあるものにして流体に働く力
 は目方あり重力あり此等外部の力を總稱して外力と云

十一月稿

偶感

流矢痛々として去りて跡無久偉人英雄ヲ載セテ其行リ
 處ヲ知ラズ人若ク新々、若ク若ク亦新々ナリ一盛一衰一
 上一下時ノ波一往昔幾萬年、以前ヨリ巨人ノ歩武ヲ以
 テ進シ僅クハ吾人ノ思想ノ中、過去ノ歴史ハシテ數千
 年前ノ昔ヲ回想セシムル、此時、記念碑ナル史策、
 上、散見スル古來偉人英雄ト稱セラルタルモノ、跡ヲ
 觀ル、唯、皆天稟ノ能カト経験ノ訓練ヲ由思、治術場ノ
 上、種々タル、決シテ學ヨテ之ヲ得タルニ非ザルナ
 リ、蘇洵嘗テ謂ヘテリ、天之所以興我者豈偶然哉、以舉夫
 天之所以興我之意、宜ナル哉、其説ヤ人各去賦ノ才アリ
 能アリ、以テ事ハ處ス可ク、以テ鴻業ヲ建ツ可ク、且フ又人

王室ヲ警護シ遂ニ王ハ國中ニ於ケル富財アル貴族ヨリ
モ少クノ以上ノモノトナルニ至リ仙國ノ威カカ初メ
テ表セラルタル地ハ伊太利國ナリトス表ヒ佛國勇
舞ハ流レテ空ニリ野徑ノ草ヲ肥セリト雖モ欧州列國
同時ニ五箇同盟國ニ對シテ能ク勝利ノ聲ヲ博シ得
タル地國民ハ諸國ノ辭ヲ禁ズル能ハサルナリ美術ノ賜
先ニ長カラガレ以前ニ當リテ伊太利國ニ榮セラレ而シ
テ住良ナル俗風ハ既ニ這國ノ尚美ナル國成ヲ望ニメ又
カテ其利ヲハ勝利者ニ表示シ伊太利ノ藝術ハ遂ニ仙國
ノ天才ヲ威歴シタルコト恰モ往昔希臘ノ美術ハ羅馬ノ
勝利御者ヲ服従セシメタルモノニ似タリ暗クニシテ
美術ハ戰爭ハヨリテ閑カレタルニ至ラズ

越エテ其進路ヲ取リ此美術ハ賢明ナル君主ハ保護ト
治版術ノ助ケトヨリテ幸福ナル土地ノ上ニ擴カレ
至シ又爰ニ於テカ文化ノ賜見燦々トシテ佛國ハ長
足ノ進歩ヲ以テ文明ノ域ニ進ニタリ新思想ノ國民思想
ノ中ニ起ルヤ此善美ナル趨嚮ニ悲ム可キ解止ヲ強制シ
虎爪攻撃ト騷擾ヲ若起セシトスル精神ハ再々文明ノ幽
光ヲ滅シ去リ宗教執ノ恐ル可キ火炎ノ煙々タルヲ見ル
ニ至リ此不幸ナル國家カ以前ヨリモ一層華野ノ狀態ニ
沈淪シテ平穩ニ永統隆限無キ有テナル内乱ノ犧牲ニ又
爛々可キニシテ教ムタル野心ノ爲メニ榮輝セラレ揚々
タル宗教執ノ爲メニ尖大炎ヲトシテ其止ムヲ知ラザ
ルニ至リ又歐洲列國ノ過半カ新思想ヲ採用シ他ノ列國

かこしが為メし好執ンタハ利害ノ關係ハ尤モ劇甚ナリ
ニト勇モ亦宗教熱ハ自ソカウコノガ強クナル動機ナリ
ニモレハ一ヲ分析ナル時ハ其大部分ハ此事件ノ努力セラ
ハタハ一主トシテ倍的情欲ノ高ムシテ又大部ハ相互
年關ニ関スル宗教ヲ補ヘトセハ政界の事情ナリナ
人ノ知ハ如ク独乙國ニアリテハ庇護ヲ求メルコト
了彼ノ思想一埋地刑國ノ強大ナル勢力ニ對シ其國貴族
ノ猜疑タラ庇護ニ西班牙ノ對スル恐懼心ト宗教裁判ノ
畏怖心ト一和蘭ノ一リウラノ國ニアリテハ新教徒ノ
帰依者ヲ増加シタリクモ在ルコト一同時ニ瑞典國ノ於
テハ舊教トシテハ一キ陰謀トシテ攪城シタルガ此等派癡癡
ノ上ニありて人ノ女皇カリスバニ猶動搖セシ王位ヲ確

明治三十四年
九月稿

鐵假面ノ囚人
時一佛王百加拾四五ノ頃十六廿七
ある事ぞ人死後數月一大奇怪ノ現象ヲ生ジタリ是ハ
即ケ彼ノ有名ナル鐵假面ノ囚人ニテ當時事ヲ歴史家
ニヨリテ其何人ナラマヤ各種ノ方面ヨリ探究セラシ
ト雖モ蓋シ不明ニ屬シ莫ク油々ノ中ニ埋ムリ去ラシ又
想フコト也リリカハ王家一族ノ人ニテハ國事ノ侵犯
トニテ也セリテ左様ノ中ニ伴吟ニ鐵面ノ中ニ忍テ君
ニ望ミシク辭夜ノ月ニ瞳セシ人ナル可シ信曰人ハ父ケ通
例ヨリ高ク眉目秀麗一見人ヲニテ高位ノ人ナラシ子
ハナリ明知セシムルハ正ハサト帝ノ非常ナル材質
中ニボリヤン此海ノ彼方ナルセクたまるコトヲ島ノ岸

咳ハ肺ハラシク又方時勢ニ替リ可ク一四州並放シ此テ一
一人ハ先ハ一ノタハモノナカリシ一ナリ而テ此内人ハ
妻ハ出セラシムル一ノ人ナリキハ時一漸ク弄リテ血
ヲ机上ニ置キ居リテ常トセシカ一日四人ハ力ヲ以テ血
ハ巨口ヲ彫リシヲ皆飲シ制シテハ解ノ中ハ殺セシハ
夫弄リテ又々終見直シ又シ時ニ提世ニケルハ大時
ハ一ニ詰固シテ潔主トシテ潔シキハ或一何人カ之ヲ
見タハ力ヲ向ヒシニ也漢夫之ヲ諫ケテ鉄ハ又弄リ何人
モ之ヲ諫ケタハ一ノ確メ得タル後母遺セラシムルハ
宰相タリシニキヤヤアハ一ノ水神湯ヲ知ルハ人ナリシモ
死ハ墜ニテ之望ヲ終アハ一ノ其若子ナリキヤアハ
右ヤアハ一ノ明言シ遊シ之ヲ諫ケザリキ鐵飯兩人早前ハ

明言シ遊シ之ヲ諫ケザリキ鐵飯兩人早前ハ

かんふりはんぞ

此疫病タルハ其勢ハ強猛ニシテ其結果亦恐ル可キ甚難
ヲ残ルモノシテ殊ニ大孝ハ於テ最モ強猛ノ威ヲ逞ウ
シ其弄ルハ疾凡ノ如リ非常ナル暴熱ト成シ或ハ咳喘ヲ伴フ
弄リ後頭部ノ苦痛ト身体ノ痠痛ヲ發作シ其去ハハ瘧後
ノ衰弱ト成シ精神ノ衰頓及ビ身体諸處作ノ不整ヲ弄ル
エト狂々是アリ古代此種病前ノ存在ヲ尋ヌルハ其策不
ニ屬否トシテ知リ難ク大古ニ於テ一切論記載ニタハモ
ノ無ク下テ中古ニ至リテモ猶不明ニシテ度々之ヲ知ル
ニ由無シ然レモ十二世紀ノ頃ニ至リテ初メテ此種疫病
ニ就キテ森亨ナリ次テ十六世紀ノ頃ニ及テ吾人一与時ノ疫
病タリシモ一ノかんふりはんぞナルヨリテ種茶ムルハ

改文ノ輸入東新セラレテヨリ南米日既久シク我國文明ノ
華又実之依ルモノ多シトナス其學一夙々學術界ヲ
支馭シ今日ハ此一見童走卒ノ徒モ之ヲ知ラガル無キ
ニ至リ輒近獨乙一歐洲列強ノ間ニ雄ヲ矜シ現時學術
界ノ覇トナリ海峽トナリ洋國ノ學術界之ヲ此ニ及ム
至リサレバ學界學術界ノ趨勢ヲ見ルニ從来獨乙學
醫學於業者ノ專有物ノ如ク觀アリニモ醫學ハナリ去學
兵學ナリ其蓋要ヲ領セ其精ヲ抽カント欲スルモノ海
外トシテ之傾ケリ爰ハ於テ我舎一獨乙於業者ノ便
道取ハ爲メ特ニ教師ヲ聘シテ懸篤ノ教授ヲ委托セリ申
テ該學篤志者ハ爲メ一言ス

海峽

鐵
腸
子